

## 2024 年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究所
------	---------

## I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2024 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

人文科学研究所は 2024 年度において3つの重点プロジェクトと、7つの研究助成プログラムを組織し、人文科学・社会科学の深化と刷新を試みた。各重点プロジェクトは、それぞれ(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」、(2)「現代における間文化現象学の新展開」、(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」をテーマに研究を行っている。(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」においては、当研究所内で 50 年余りの歴史を有する近代日本思想史研究会が中心となり、中期的テーマを設定し研究成果を蓄積している。(2)「現代における間文化現象学の新展開」においては、現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、文学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角を模索し、人間科学に関する学際的な研究を積極的に蓄積している。(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」では、東アジア地域に焦点を絞り、各地域の特徴や動態を明確にするべく、「東アジアの福祉レジームと市民社会」を考察すると同時に、グローバルな移動(mobilities)によって特徴づけられる世界が有するに至っている課題と可能性を浮彫にするべく、「グローバルな移動(mobilities)の中の世界」を考察している。そして、これら両側面を有機的に結びつけながら、総合的・豊穡な研究を実現しつつある。

## 研究成果の発信と社会貢献

上記の長期目標をふまえて 2024 年度においては、以下のような研究成果の発信と社会貢献を具体的にに行った。

まず(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」(代表:小関素明)では、本年度は7本の論稿と1本の書評よりなる「近代日本の自己完結性のやぶれ」と銘打った特集号(『人文科学研究所紀要』No.141)を刊行することができた。また、4回の研究会の開催や若手研究者の資料収集など活発な研究活動を展開し、その成果として著書4冊、論考48本、口頭報告37本が発表された。

(2)「現代における間文化現象学の新展開」(代表:加國尚志)では、2024 年度は海外からの招聘者を含む講演会、ワークショップ、シンポジウムを7件開催し、積極的な活動をおこなった。とくに国際シンポジウムとしては「われわれ」と「不気味な他者」、「第4回東アジア間文化現象学会議」を実施した。また『立命館大学人文科学研究所紀要』No.140 において3つの小特集を掲載し、21本の著書と48本の論文を刊行した。

(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」(代表:遠藤英樹)では、国内外で20回以上の講演会・シンポジウム・ワークショップ・研究会を開催した。とくに、ルイス・エヴァラス氏の講演、アンソニー・エリオット氏との国際カンファレンス、国際シンポジウム「モビリティ研究を前進させる」「官民パートナーシップを含むグローバルな科学技術ガバナンスに関する共同研究に向けて」などを開催した。また15本の著書と37本の論文を刊行した。

## 若手研究者の支援

人文科学研究所では本年度も、読書会、研究会・ワークショップにおける発表、調査・フィールドワークなど、多様な機会をとらえて、若手研究者の育成をはかってきた。具体的には若手研究者自身がワークショップをコーディネートできる機会を提供したり、若手研究者育成を目的に国内外の最新業績を批判的に検討する読書会を開催したりした。さらに博士後期課程に在学する大学院生に対しても、積極的に研究会・ワークショップにおける発表機会を提供するとともに、現地調査・フィールドワークを実施した。その具体的な成果として、本研究所から育った若手研究者が大学教員の職を得たり、他研究機関の研究員に採用されたり、民間財団の研究助成に採択されたりしている。

以上、2024 年度の研究活動においても所期の目的を順当に推進できたと言えよう。

## II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2025年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長	亀井 大輔	文学部	教授
運営委員	遠藤 英樹	文学部	教授
	川村 仁子	文学部	教授
	市井 吉興	国際関係学部	教授
	小関 素明	産業社会学部	教授
	越智 萌	文学部	准教授
	加國 尚志	国際関係学部	教授
	加藤 雅俊	文学部	教授
	神田 孝治	産業社会学部	教授
	本田 稔	文学部	教授
	山本 理佳	文学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	林 芳紀	文学部	教授
	長澤 麻子	文学部	教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	花崎 育代	文学部	教授
	井上 充幸	文学部	教授
	萩原 正樹	文学部	教授
	河原 典史	文学部	教授
	永守 伸年	文学部	准教授
	鈴木 崇志	文学部	准教授
	小野 真由美	文学部	准教授
	ウェルズ 恵子	文学部	特任教授
	森田 耕平	文学部	特任助教
	北西 諒介	文学部	特任助教
	園田 節子	国際関係学部	教授
	白戸 圭一	国際関係学部	教授
	渡邊 松男	国際関係学部	教授
	Kim Viktoriya	国際関係学部	准教授
	北村 理依子	国際関係学部	助教
	漆原 良	産業社会学部	教授
	鎮目 真人	産業社会学部	教授
	松田 亮三	産業社会学部	教授
	筒井 淳也	産業社会学部	教授
江口 友朗	産業社会学部	教授	
金澤 悠介	産業社会学部	教授	

		櫻井 純理	産業社会学部	教授
		住田 翔子	産業社会学部	准教授
		長尾 伸一	産業社会学部	客員教授
		日暮 雅夫	産業社会学部	特任教授
		石崎 祥之	経営学部	教授
		羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授
		駒見 一善	国際教育推進機構	准教授
		石原 悠子	グローバル教養学部	准教授
		神島 裕子	総合心理学部	教授
		美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
		石田 雅芳	食マネジメント学部	教授
		高田 剛司	食マネジメント学部	教授
		永井 隼人	経営管理研究科	准教授
		松井 信之	立命館アジア・日本研究機構	准教授
五十嵐美華 十河和貴	① 専門研究員 研究員 初任研究員	酒井 麻依子	衣笠総合研究機構	助教
		宮下 祥子	衣笠総合研究機構	専門研究員
		下村 晃平	衣笠総合研究機構	専門研究員
		松田 智裕	衣笠総合研究機構	専門研究員
		有村 直輝	衣笠総合研究機構	専門研究員
		柳川 耕平	衣笠総合研究機構	専門研究員
		李 定恩	衣笠総合研究機構	専門研究員
		鈴木 裕貴	衣笠総合研究機構	研究員
		角田 燎	アジア・日本研究機構	専門研究員
		五十嵐 美華	アジア・日本研究機構	専門研究員
		十河 和貴	アジア・日本研究機構	初任研究員
① リサーチアシスタント	若杉 直人	文学研究科	博士課程後期課程 (NEXT 学生フェ ロー)	
	堀内 智吉	文学研究科	博士課程後期課程	
	田丸 幹	国際関係研究科	博士課程後期課程	
	Jonali SARMA	国際関係研究科	博士課程後期課程	
② 大学院生	福井 優	文学研究科	博士課程後期課程	
	海野 大地	文学研究科	博士課程後期課程	
	吉水 希枝	文学研究科	博士課程後期課程	
	木多 悠介	文学研究科	博士課程後期課程	
	中井 悠貴	文学研究科	博士課程後期課程	
	中村 凌太郎	文学研究科	博士課程後期課程	
	落合 優翼	文学研究科	博士課程後期課程	
	肖 亮	文学研究科	博士課程後期課程	
	田中 龍	文学研究科	博士課程後期課程	
	松原 大介	文学研究科	博士課程後期課程	
佐々木 梓	文学研究科	博士課程後期課程		

	鷲尾 涉	文学研究科	博士課程後期課程
	松原 一智	文学研究科	博士課程前期課程
	王 子豪	文学研究科	博士課程後期課程
	塩野 仁志	社会学研究科	博士課程後期課程
	浅野 航平	文学研究科	博士課程前期課程
	荒平 由佳	文学研究科	博士課程前期課程
	山田 廉	文学研究科	博士課程前期課程
	GE Peichu	文学研究科	博士課程前期課程
	XU Haoyu	文学研究科	博士課程前期課程
	YU Seung Rim	文学研究科	博士課程前期課程
	阿部 生	文学研究科	博士課程前期課程
	市原 遼人	文学研究科	博士課程前期課程
	井上 大夢	文学研究科	博士課程前期課程
	榎並 拓登	文学研究科	博士課程前期課程
	田代 優都	文学研究科	博士課程前期課程
	谷山 翔馬	文学研究科	博士課程前期課程
	麦谷 雄飛	文学研究科	博士課程前期課程
	山崎 康平	文学研究科	博士課程前期課程
	山本 理子	文学研究科	博士課程前期課程
	和田 周大	文学研究科	博士課程前期課程
	HU Jingfeng	文学研究科	博士課程前期課程
	LIU Yiting	文学研究科	博士課程前期課程
	徐 之宸	文学研究科	博士課程前期課程
	ZHOU Ruoyan	文学研究科	博士課程前期課程
	朱 逸軒	文学研究科	博士課程前期課程
	テト° アジト° エンバ°	国際関係研究科	博士課程後期課程
	芹澤 隆道	国際関係研究科	博士課程後期課程
	ジュリア・ペサ	国際関係研究科	博士課程後期課程
	オウカ ホウ	国際関係研究科	博士課程前期課程
③ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)	丸山 彩	衣笠総合研究機構	特別研究員(RPD)
	猪原 透	衣笠総合研究機構	特別研究員(RPD)
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研 究生、研修生等)	寺澤 優	文学部	授業担当講師
	吉田 武弘	文学部	授業担当講師
	山口 一樹	文学部	授業担当講師
	宮原 優	文学部	授業担当講師
	丸橋 裕	文学部	授業担当講師
	松葉 祥一	文学部	授業担当講師
	青柳 雅文	文学部	非常勤講師
	神田 大輔	文学部	非常勤講師
	浅沼 光樹	文学部	非常勤講師
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師

	小林 琢自	文学部	非常勤講師
	塩見 俊一	産業社会学部	授業担当講師
	平石 貴士	産業社会学部	授業担当講師
	梶居 佳広	教養教育センター	非常勤講師
	猪俣 貴幸	経済学部	授業担当講師
客員協力研究員	松野 周治	立命館大学	名誉教授
	長島 修	立命館大学	名誉教授
	殷 暁星	広島大学	助教
	佐藤 太久磨	漢陽大学国際文化大学	助教授
	眞杉 侑里	韓国東儀大学校	助教授
	伊故海 貴則	北海学園大学	専任講師
	島田 龍	人文科学研究所	客員協力研究員
	穎原 善徳	人文科学研究所	客員協力研究員
	西田 彰一	国際日本文化研究センター	プロジェクト研究員
	川崎 唯史	東北大学病院	特任講師
	黒岡 佳紘	福州大学（中華人民共和国）	副教授
	佐藤 勇一	大東文化大学社会学部	准教授
	横田 祐美子	横浜美術大学	助教
	赤坂 辰太郎	日本学術振興会特別研究院	PD（立教大学）
	佐藤 愛	日本学術振興会特別研究員	RPD（青山学院大学）
	中澤 瞳	日本大学通信教育部	准教授
	小西 真理子	大阪大学大学院文学研究科	准教授
	伊藤 潤一郎	新潟県立大学	講師
	廣瀬 浩司	筑波大学人文社会系	教授
	本郷 均	東京電機大学工学部	教授
	川瀬 雅也	神戸女学院大学文学部	教授
	郷原 佳以	東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻	准教授
	宮崎 裕助	専修大学文学部	教授
	紀平 知樹	兵庫県立大学看護学部	教授
	神崎 宣次	南山大学国際教養学部	教授
	池田 喬	明治大学文学部	教授
	中澤 英輔	東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野	教授
	佐々木 拓	金沢大学人間社会研究域人間科学系	教授
	杉本 俊介	慶応義塾大学商学部	准教授
	吉川 孝	甲南大学文学部	教授
	Michel Dalissier	金沢大学国際基幹教育院	准教授

	西山 雄二	東京都立大学人	教授
	ファヨル入江容子	甲南大学文学部	講師
	松葉 類	上越教育大学	助教
	Veronica Cibotaru	ルーヴェンカトリック大学	客員講師
	丹羽 一晃	大阪公立大学	客員研究員
	古怒田 望人	工学院大学	非常勤講師
	藤巻 正己	立命館大学	名誉教授・上席研究員
	龍澤 邦彦	立命館大学	名誉教授・上席研究員
	新井 克弥	関東学院大学	教授
	松本 健太郎	獨協大学	教授
	韓 準祐	多摩大学	准教授
	二村 洋輔	至学館大学	助教
	谷崎 友紀	京都文教大学	専任講師
	間中 光	追手門学院大学	専任講師
	須藤 廣	北九州市立大学	名誉教授
	種田 博之	産業医科大学	講師
	橋本 和也	京都文教大学	名誉教授
	安田 慎	高崎経済大学	准教授
	伊藤 嘉高	新潟大学	准教授
	寺田 憲弘	仁愛大学	特任准教授
	栗谷 佳司	衣笠総合研究機構	客員協力研究員
	Andika Kurniawan Muhammad Tri	Bakrie University	副学長
	北 和樹	富山大学	非常勤講師
	Cidale Federica	the EU-funded European Union in the Volatile Indo- Pacific (EUVIP)	研究員
	額賀 京介	衣笠総合研究機構	客員協力研究員
	大月 功雄	衣笠総合研究機構	客員協力研究員
	豊島 誠也	衣笠総合研究機構	客員協力研究員
	寺岡 伸悟	奈良女子大学	教授
	鍋倉 咲希	立教大学	助手
	林 春伽	比治山大学	講師
	渡部 瑞希	帝京大学	講師
	安田 峰俊	衣笠総合研究機構	客員協力研究員
	井澤 友美	在インドネシア日本大使館	専門調査員
	山口 達也	外務省外交史料館	非常勤職員

	蔡 龍保	台北大学歴史学科	教授
その他の学外者	中谷 義和	立命館大学	名誉教授
	松下 洸	立命館大学	名誉教授
	伊藤 繭子	Australian National University	講師
	丸山 裕美子	愛知県立大学	教授
	藤野 真挙	茨城キリスト教大学	講師
	岡本 直美	岐阜工業高等専門学校	講師
	原 一樹	京都外国語大学	教授
	クロス 京子	京都産業大学	教授
	辻 正博	京都大学	教授
	加藤 里沙	金沢学院大学	准教授
	崔 佳榮	駒澤大学	准教授
	千田 航	釧路公立大学	准教授
	池田 裕輔	釧路工業高等専門学校	講師
	奈良 勝司	広島大学	教授
	路 劍虹	江蘇海洋大学	講師
	安武 留美	甲南大学	名誉教授
	太清 伸	国際刑事裁判所	分析官補
	斎藤 デビッド 宥雅	国際刑事裁判所	法務官補
	伊藤 将人	国際大学	講師
	堀江 孝司	首都大学東京	教授
	岸川 毅	上智大学	教授
	久保田 隆	信州大学	准教授
	川口 博子	早稲田大学	次席研究員
	加茂 利男	大阪公立大学	名誉教授
	三谷 舜	中京大学	講師
	上田 滋夢	追手門学院大学	教授
	李 蓮花	東京経済大学	准教授
	三枝 暁子	東京大学	教授
	伊藤 武	東京大学	教授
	横田 正顕	東北大学	教授
	李 真熙	同志社大学	博士課程後期課程
	中谷 哲弥	奈良県立大学	教授
	薬師 寺浩之	奈良県立大学	准教授
堀野 正人	二松學舎大學	教授	
アンジェロ・イシ	武蔵大学	教授	
小林 ハッサル 柔子	武蔵大学	教授	

	北村 知之	福井県立大学	名誉教授
	河原 梓水	福岡女子大学	准教授
	横濱 和弥	北海道大学	准教授
	根岸 海馬	立教大学	兼任講師
	濱田 江里子	立教大学	准教授
	鍋倉 咲希	立教大学	助手
	Doering Timothy Adam	和歌山大学	教授
研究所構成員 計 231 名 (うち学内の若手研究者 計 57 名)			

### Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2025年3月31日時点)  
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	十河和貴	『帝国日本の政党政治構造：二大政党の統合構想と《護憲三派体制》』	単著	2024年	吉田書店		P. 455
2	十河和貴	<i>The Dynamics of East Asian Politics and Diplomacy in the 1920s: The Intersection of International Cooperation and Imperial Expansion</i>	共編著	2025年	Asia-Japan Research Institute, Ritsumeikan University		
3	宮下祥子	日高六郎の戦後啓蒙—社会心理学と教育運動の思想史	単著	2025年2月	人文書院	その他編者・著者名	P. 364
4	河原梓水	SMの思想史 戦後日本における支配と暴力をめぐる夢と欲望	単著	2024年	青弓社		P. 408
5	谷徹	哲学史入門Ⅲ	共著	2024年6月	NHK出版	編者：斎藤哲也共著者：飯田隆、清家竜介、宮崎裕助、國分功一郎	PP. 29-74
6	Toru Tani	Interkulturelle Phänomenologie – Georg Stengers Werk im Gespräch	共著	2024年	Verlag Karl Alber	編者：Murat Ates, L'ubomir Donaj 共著者：多数	PP. 245-265
7	谷徹	共同研究 共生(続)——SDGsと次世代への視座	共著	2025年3月	公益財団法人日独文化研究所、現代思潮新社	共著者：多数	PP.120-128, P. 129-152, P.P. 212-235
8	古怒田望人	『クリア・レヴィナス』	単著	2025年3月	青土社	なし	P.P.1-232
9	伊藤潤一郎	国際地域学の課題——Crisis and Transformation	共著	2024年5月	小鳥遊書房		PP.44-49
10	伊藤潤一郎	日本の大衆文化はなぜ「終末」を描くのか—漫画、アニメ、音楽に観る「世界の終わり」	共著	2024年10月	P ヴァイン		PP. 183-186
11	中澤栄輔	Jin (Benevolence): End-of-life care in Japanese clinical settings	共著	2024年	In Alternative virtues: Japanese perspectives on Christian and Confucian traditions and education. Routledge	立花幸司	PP. 122-138

12	宮崎裕助	読むことのエチカ——ジャック・デリダとポール・ド・マン	単著	2024年5月	青土社		PP. 1-426
13	宮崎裕助	哲学史入門Ⅲ——現象学・分析哲学から現代思想まで	共著	2024年6月	NHK出版	斎藤哲也編	PP. 138-248
14	池田喬	「嘘をつく」とはどういうことか——哲学から考える(ちくまプリマー新書 479)	単著	2025年1月	筑摩書房		PP. 1-240
15	池田喬	認識的不正義ハンドブック: 理論から実践まで	共著	2024年11月	勁草書房	佐藤邦政、神島裕子、榎原英輔、三木那由他編	PP. 147-166
16	池田喬	ドイツ哲学入門	共著	2024年10月	ミネルヴァ書房	鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編	PP. 315-324
17	吉川孝	認識的不正義ハンドブック: 理論から実践まで	共著	2025年11月	勁草書房	ミツヨ・ワダ・マルシアーノ編	PP. 214-230
18	吉川孝	映像アーカイブ・スタディーズ	共著	2025年1月	法政大学出版局	佐藤邦政、神島裕子、榎原英輔、三木那由他編	PP. 473-493
19	鈴木崇志	フッサール入門	単著	2025年3月	筑摩書房		PP. 1-282
20	伊藤潤一郎	泥棒! ——アナキズムと哲学	共訳	2024年7月	青土社	カトリヌ・マラブー(著)、吉松覚、横田祐美子(共訳)	第1章、第2章、第9章、結論、全体のエピグラフ、謝辞
21	酒井麻依子	[翻訳] 女の子のための西洋哲学入門: 思考する人生へ	共訳	2024年11月	フィルムアート社	メリッサ・M・シューキンバリー・K・ガーチャー(編), 三木那由他, 西條玲奈(監訳), 青田麻未, 安倍里美, 飯塚理恵, 鬼頭葉子, 木下頌子, 権瞳, 酒井麻依子, 清水晶子, 筒井晴香, 村上祐子, 山森真衣子, 横田祐美子(共訳)	PP. 65-86, 515-540
22	柿木伸之	[翻訳] ハインレ詩文集	単訳	2025年2月	月曜社	クリストフ・フリードリヒ・ハインレ(著), ヨハネス・シュタイツィンガー(編)	PP. 1-352
23	宮崎裕助	[翻訳] この生——世俗的信と精神的自由	共訳	2024年9月	名古屋大学出版会	マーティン・ヘグルンド(著), 木内久美子, 小田透(共訳)	PP. 1-342
24	松葉洋一	[翻訳] 共同の未来	監訳	2024年4月	法政大学出版局	ジャン＝リュック・メランション(著), 飛幡祐規・ジャック＝マリ・ピノー・堀晋也(共訳)	
25	永守伸年	[翻訳] 信頼と不信の哲学入門	共訳	2024年12月	岩波書店	キャサリン・ホーリー(著), 稲岡大志, 杉本俊介, 杉本俊介(共訳)	
26	遠藤英樹	ツーリズム・リサーチメソッド入門	編著	2024年4月	法律文化社	神田孝治, 山本理佳, 渡部瑞希, 小野真由美, 谷崎友紀, 前田一馬	PP. 1-6, PP. 33-42, PP. 57-66, PP. 81-147, PP. 163-185, PP. 201-207, PP. 217-224
27	神田孝治	ツーリズム・リサーチメソッド入門	共著	2024年4月	法律文化社	遠藤英樹, 山本理佳, 渡部瑞希, 小野真由	PP. 67-78

						美、谷崎友紀、前田一馬	
28	山本理佳	ツーリズム・リサーチメソッド入門	共著	2024年4月	法律文化社	遠藤英樹、神田孝治、渡部瑞希、小野真由美、谷崎友紀、前田一馬	PP. 9-20
29	渡部瑞希	ツーリズム・リサーチメソッド入門	共著	2024年4月	法律文化社	遠藤英樹、神田孝治、山本理佳、小野真由美、谷崎友紀、前田一馬	PP. 21-32
30	小野真由美	ツーリズム・リサーチメソッド入門	共著	2024年4月	法律文化社	遠藤英樹、神田孝治、山本理佳、渡部瑞希、谷崎友紀、前田一馬	PP. 43-56
31	谷崎友紀	ツーリズム・リサーチメソッド入門	共著	2024年4月	法律文化社	遠藤英樹、神田孝治、山本理佳、渡部瑞希、小野真由美、前田一馬	PP. 186-199
32	川村仁子	グローバルリスク・ダイナミクス	編著	2025年3月	晃洋書房	中谷義和・松下洸・五十嵐美華・井澤友美・米田富太郎・美馬達哉・松井信之・ガジェヴァ・ナデジュダ・北和樹・山口達也・田丸幹・龍澤邦彦	PP. 88-99
33	羽谷沙織	カンボジアは変わったのか——「体制移行」の長期観察	共著	2024年6月	めこん出版	小林知編者	PP. 469-501
34	Yotsumoto, Yukio	Conserving Agricultural Heritage and Revitalizing Communities in the Asia Pacific Region	共著	2024年11月	Cambridge Scholars Publishing	Vafadari, Kazem	PP. 79-112
35	安田峰俊	恐竜大陸 中国	単著	2024年6月	KADOKAWA (角川新書)		
36	安田峰俊	中国ぎらいのための中国史	単著	2024年9月	PHP 新書		
37	安田慎	貨幣・所有・市場のモビリティ (イスラームからつなぐ2)	共著	2024年4月	東京大学出版会	長岡慎介編	PP. 227-249
38	安田慎	地域を変革するリーダーシップの展開	共著	2025年3月	日本経済評論社	高崎経済大学地域科学研究所編、若林隆久編	PP. 217-242
39	下村晃平	ネオリベラリズム概念の系譜	単著	2025年2月	新曜社		
40	角田燎	戦争のかげらを集めて	共編著	2024年6月	図書出版みぎわ	清水亮、白岩伸也	
41	三枝暁子	『「ムラの戸籍簿」を読み解くー「郷」と「村」の古代・中世』	共著	2024年10月	小さ子社	大山喬平・服部光真氏と共編	PP. 401-416, PP. 477-485
42	ウェルズ恵子	『おとぎ話はなぜ残酷でハッピーエンドなのか』	単著	2024年12月	岩波ジュニア新書		全頁
43	Megumi Ochi	The Premises of International Criminal Procedure - Identifying the Principles in International Collaboration	単著	2024	Springer		
44	Megumi Ochi	Towards a Transformative Reparation Process: The Communication Practice by the International Criminal Court	単著	2024年9月	Megumi Ochi, Renata Barbosa, Luyuan Bai (Eds.) Victim-Centred Criminal Justice (Maklu)		PP. 217-243
45	園田節子	「第六章 近代華工の実践 (プラクティス)を通した「自由/不自由」の再考」『移動の文明誌: 「自由」	共著	2025年2月	思文閣出版	鈴木英明編	PP. 155-198.

		と「不自由」の狭間で』					
46	園田節子	「第12章 中国系（1）—1965年以前の移民史」『アジア系アメリカを知るための53章』	共著	2024年10月	明石書店	李里花編	PP. 90-95.
47	園田節子	「第40章 中国系と博物館—コミュニティ史の発信」『アジア系アメリカを知るための53章』	共著	2024年10月	明石書店	李里花編	PP. 244-250.
48	岸川毅	「対外関係：中南米」『中国年鑑2024』	共著	2024年5月	明石書店	中国研究所編	PP. 147-148.
49	Yasutake, Rumi	The Feminist Pacific: International Women's Networks in Hawai'i, 1820-1940.	単著	2024年8月	Columbia University Press		総ページ328
50	美馬達哉	臨床と生政治—〈医〉の社会学—	単著	2024年	青土社		
51	北和樹	EUのAIガバナンス—新技術に対する国際的な科学技術ガバナンスに向けて—	単著	2025年3月	晃洋書房		
52	市井吉興	イアン・ボーデン著『全スケートボード史』	監訳	2024年9月	晶文社	住田翔子・塩見俊一・豊島誠也	PP. 1-377
53	市井吉興	「オリンピックと祝賀資本主義」	単著	2025年3月	『スポーツ社会学事典』丸善出版	日本スポーツ社会学会編	PP. 308-309
54	市井吉興	「スポーツと資本主義リアリズム」	単著	2025年3月	『スポーツ社会学事典』丸善出版	日本スポーツ社会学会編	PP. 314-315
55	市井吉興	「マルクス主義」	単著	2025年3月	『スポーツ社会学事典』丸善出版	日本スポーツ社会学会編	PP. 596-597
56	三谷舜	『軟式ボールの社会学：近代スポーツの日本的解釈の可能性』	単著	2025年3月	創元社		PP. 1-240
57	三谷舜	「軟式球技」	単著	2025年3月	『スポーツ社会学事典』丸善出版	日本スポーツ社会学会編	PP. 40-41
58	上田滋夢	「国際機関が形成するスポーツの政治的空間」	単著	2025年3月	『スポーツ社会学事典』丸善出版	日本スポーツ社会学会編	PP. 306-307
59	平石貴士	「オルタナティブスポーツ」	単著	2025年3月	『スポーツ社会学事典』丸善出版	日本スポーツ社会学会編	PP. 48-49

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	小関素明	近代日本の国家学と帝国憲法体制の造形	単著	2024年	『立命館大学人文科学研究紀要』141		PP. 5-40	有
2	十河和貴	「南進政策の第一線から愛知の代議士へ：小笠原三九郎における海外経験」	単著	2025年3月	小野純子・岡野翔太・呉穎濤・やまだあつし編『名古屋、アジアに出会う：文化・歴史・記憶をあるく』図書出版みぎわ			無
3	十河和貴	"Moving the Border of Empire: The Role of the Colonial Ministry (Takumushō) in Manchuria and the Defeat of Parliamentary Centrism in Japan"	単著	2024年	Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University, Vol.6		PP. 1-20	有
4	十河和貴	<書評>奥健太郎/清水唯一朗/濱本真輔編著『政務調査会と日本の政党政治：一三〇年の軌跡』	単著	2024年6月	『週刊読書人』		第4面	無
5	十河和貴	<書評>山中永之佑『帝国日本の統治法 内地と植民地朝』	単著	2024年	『現代台湾研究』54		PP. 60-65	有

		鮮・台湾を焦点とする』						
6	十河和貴	<書評>古川隆久著『政党政治家と近代日本：前田米蔵の軌跡』	単著	2024年10月	『図書新聞』		第4面	無
7	十河和貴	<紹介>『「憲政常道」の近代日本—戦前の民主化を問う』	単著	2025年3月	『中央公論』4月号		PP. 182-183	無
8	宮下祥子	社会心理学領域における「災害ボランティアの専門家」の言説の検討—令和6年能登半島地震をめぐるマスメディア報道の問題性に関連して	単著	2024年	『新しい歴史学のために』304		PP. 10-118	有
9	福井優	神島二郎における「人心の民主主義」の構想	単著	2024年	『立命館大学人文科学研究紀要』141		PP. 179-209	有
10	福井優	加藤周一の芸術論：現代における芸術的創造を巡って	単著	2025年3月	『加藤周一現代思想研究センター報告』2		PP. 147-177	有
11	福井優	「思想運動」としての編集 鷲巣力氏オールラウンドヒストリー	単著	2025年3月	『加藤周一現代思想研究センター報告』2		PP. 191-223	有
12	福井優	<資料紹介>加藤周一文庫所蔵書簡資料の紹介	共著	2025年3月	『加藤周一現代思想研究センター報告』2	落合 優翼、蛭子良風、堀内智吉、齋藤由紀	PP. 225-232	無
13	中井悠貴	酒井勝軍と「八紘一宇」理念：第一世界大戦後の「世界性」認識と世界新秩序論をめぐる	単著	2024年	『日本思想史学』56		PP. 118-135	有
14	中井悠貴	<討論要旨>『昭和天皇拝謁記』からみた戦後日本と昭和天皇	単著	2024年	『歴史科学』257		PP. 56-57	無
15	丸山彩	明治期の京都における演奏会—京都音楽会に着目して	単著	2025年3月	塚原康子先生東京藝術大学退任記念論文集編集委員会編『音楽でつながる—日本とアジア・都市と周縁・近世と近代—』(音楽之友社)		PP. 285-299	無
16	猪原透	日本社会学会創立前後の社会と社会学	単著	2025年3月	『社会学評論』300		PP. 335-352	有
17	猪原透	<座談会>学会を構想・実現・運営するということ：『Antitled』創刊3周年を迎えて		2024年	『Antitled』3	猪原透、河原梓水、田中誠、寺澤優、眞杉侑里	PP. 151-168	
18	長島修	軍事占領下の大冶鉄山—金融的支配から軍事占領へ—	単著	2024年	『立命館大学人文科学研究紀要』141		PP. 115-147	有
19	寺澤優	山根正次の「梅毒亡国論」と私娼管理体制への道—行政執行法改正による「監獄方式」の導入—	単著	2024年	『九州史学』198		PP. 30-58	有
20	寺澤優	<史料紹介> 南喜一旧蔵史料と「玉ノ井私娼解放運動」の足跡を追う	単著	2024年	『Antitled』3		PP. 87-99	有
21	山口一樹	ウシガエルを食べた日	単著	2024年	『湖国と文化』188		PP. 75-77	無
22	山口一樹	一九二〇年代における陸軍と政・軍協調体制の形成：統帥権独立と政治の狭間	単著	2024年	『ヒストリア』307		PP. 236-261	有
23	山口一樹	<書評>吉田裕編『戦争と軍隊の政治社会史』	単著	2024年	『日本史研究』742		P. 79	有
24	山口一樹	<資料紹介>多和田養蛙場について：『関西調査旅行報告書』(東京海洋大学附属図書館所蔵)より	単著	2025年3月	『滋賀県史研究』1		PP. 82-98	有
25	山口一樹	<資料紹介>皇室献上関係文書	単著	2024年	『滋賀のアーカイブズ』16		P. 7	無
26	吉田武弘	公議の制度化と上院・最高顧問府—井上毅を中心に—	単著	2024年	『立命館大学人文科学研究紀要』141		PP. 49-79	有
27	奈良勝司	近代日本のアイデンティティ構造と変遷—総力戦・実学・コ	単著	2024年	『次世代 人文社会研究』21			有

		コミュニティ						
28	奈良勝司	Early Modern Period' in Comprehensive History	単著	2024年	『The Journal of Northeast Asian History』20-2		PP. 223-232	有
29	奈良勝司	「君たちはどう生きるか」と帝国日本	単著	2025年3月	広島大学日本史学教室『国史談話会報』135		PP. 3-30	無
30	奈良勝司	<書評> 長野浩典著『明治の大獄 尊王攘夷派の反政府運動と弾圧』	単著	2024年	『週刊読書人』3572		P. 4	無
31	佐藤太久磨	<書評>松村寛之著『「日本的なるもの」の思想史—戦争の時代における個人』(有志舎、2023年)	単著	2024年	『立命館大学人文科学研究紀要』141		PP. 243-256	有
32	佐藤太久磨	<監修>李俊榮、パイチャゼ・スヴェトラナ著『樺太からサハリンへ:歴史・空間・観光』(漢陽大学校 ERICA・BK21 FOUR 地域文化創出と人文活動方法論構築のための日本学教育研究チーム)		2025年1月			PP. 1-36	
33	河原梓水	蝦夷の公民化と調庸負担	単著	2024年	本郷真紹監修/山本崇・毛利憲一編『日本古代の国家・王権と宗教』法蔵館		PP. 249-274	無
34	河原梓水	カストリ雑誌時代の『奇譚クラブ』	単著	2024年	石川巧編『戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌』勉誠社		PP. 163-164	無
35	河原梓水	セクシュアリティ研究と日本史学:史料の問題を中心に	単著	2024年	『九州歴史科学』52		PP. 43-53	有
36	河原梓水	How 'perversion' gained affirmative connotation among SM enthusiasts in Japan - erotic confessions in the early Kitan Club	単著	2024年	Yugen SM 7		PP. 24-28	有
37	河原梓水	<書評>松村喬子著『地獄の反逆者』	単著	2024年10月	『北海道新聞』			無
38	河原梓水	<書評>小西真理子著『歪な愛の倫理』(書評エッセイ) マゾヒスト女性はその行為を真に欲望しているのか、それとも男性優位社会の社会通念を内面化した「被害者」なのか	単著	2024年4月2日	WEBアステイオン			無
39	河原梓水	<座談会>学会を構想・実現・運営するということ:『Antitled』創刊3周年を迎えて		2024年	『Antitled』3	猪原透、河原梓水、田中誠、寺澤優、真杉侑里	PP. 151-168	
40	真杉侑里	私的売春営業に対する性病検診の実態—愛知県名古屋市中曾根の私娼街を対象として—	単著	2024年	『日本近代学研究』86		PP. 89-108	有
41	真杉侑里	<書評>寺澤優著『戦前日本の私娼・性風俗産業と大衆社会:売買春・恋愛の近現代史』	単著	2024年	『立命館アジア・日本研究学術年報』		P. 414	有
42	真杉侑里	<座談会>学会を構想・実現・運営するということ:『Antitled』創刊3周年を迎えて		2024年	Antitled』3	猪原透、河原梓水、田中誠、寺澤優、真杉侑里	PP. 151-168	
43	伊故海貴則	町村制下における町村合併問題と村の「輿論」—静岡県遠江国佐野郡南郷村を事例に—	単著	2024年	『法学研究』60-3		PP. 73-128	無
44	伊故海貴則	<書評>伊藤之雄著『維新の政治と明治天皇—岩倉・大久保・木戸の「公論」主義 1962	単著	2025年	『歴史評論』899		PP. 93-98	招待

		～1871』						
45	島田龍	或る家族の肖像	単著	2024年	『ロマン的なるもの研究会 MAGAZINE』 1		PP. 12-14	有
46	島田龍	水色のランプを手にして一詩人 塩寺はるよ	単著	2025年	『ロマン的なるもの研究会 MAGAZINE』 4		PP. 1-3	有
47	島田龍	<対談>左川ちかの現代性		2024年	『すばる』 2024年5月号		PP. 12-14	
48	西田彰一	戦前戦中の上司海雲	単著	2025年3月	奈良県立大学ユーラシア研究センター編『学術叢書 シリーズ4 vol.3 奈良に蒔かれた言葉IV 近世・近代の思想』		PP. 113-132	無
49	Romarc Jannel	En deçà et au-delà du logos avec Yamauchi Tokuryū	単著	2024年6月	Philosophie, 162 (3)		PP. 113-123	有
50	Romarc Jannel	Sugimura Yasuhiko : « "Le corps 'auto-éveillant' : ce qui ressort de l'appréciation nishidienne de Maine de Biran" »	共著	2024年6月	Philosophie, 162 (3)	翻訳	PP. 58-74	有
51	Romarc Jannel	Miki Kiyoshi : « L'humain et l'environnement »	共著	2024年6月	Philosophie, 162 (3)	翻訳	PP. 35-42	有
52	Romarc Jannel	Présentation du dossier	単著	2024年6月	Philosophie, 162 (3)		PP. 33-34	有
53	Romarc Jannel	山内得立 (1890-1982年) の哲学——東西思想の包括的乗り越えの試み——	単著	2024年6月	『人文学報』、第122号		PP. 475-493	有
54	Romarc Jannel	西田幾多郎と鈴木大拙の思想における「即」・「即非」概念の差異に関する一考察	単著	2024年8月	『求真』、第29号		PP. 189-208	有
55	Romarc Jannel	「哲学受容の三段階 廖欽彬編著、河合一樹編著『危機の時代と田辺哲学—田辺元没後60周年記念論集』	単著	2024年8月	『求真』、第29号		PP. 303-307	有
56	Romarc Jannel	Environmental philosophy in Asia: Between ecorientalism and ecological nationalisms	共著	2024年9月	Environmental Values, 34 (1)	Lajna Droz等共著	Online	有
57	Romarc Jannel	Variété des regards : autour des deux poèmes japonais de Paul Mus (1963)	単著	2025年1月	Bulletin de la Société des Amis de Paul Mus, 5			無
58	Naoki Arimura	Whitehead and Victorian Philosophy of Science: A Historical Investigation of the Concept of Hypothesis	単著	2024年6月	De Gruyter, Human Affairs, vol. 34, no. 3		PP. 393-407	有
59	有村直輝	楢円的な思弁 : 『生成の美と論理』に対する4問とコメントへの応答	単著	2024年11月	立命館大学人文科学研究so、『立命館大学人文科学研究so紀要』、140号		PP. 193-215	有
60	谷 徹	大地と身体	単著	2014年4月	石川県西田幾多郎哲学記念館、『Formless Form 無相の相』	企画: 張燦輝、張政遠 共著者: 多数	PP. 26-29	無
61	K. Yanagawa,	On concepts of action and behavior as the implicit point of agreement between Enactivism and Radical Behaviorism	共著	2025年1月	Springer, "Asian Journal of Philosophy" 4(18)	H. Matsui		有
62	柳川耕平	歴史の統一性について	単著	2025年3月	フッサール研究会、『フッサール研究』第22号		PP. 73-96	無
63	伊藤潤一郎	ネグリとナンシー——コモンをめぐって	単著	2024年5月	青土社、現代思想、52巻7号		PP. 235-245	無
64	伊藤潤一郎	色のクオリアと証言	単著	2024年11月	日本色彩学会、色彩学、3巻4号		PP. 179-182	無
65	伊藤潤一郎	子どものいない脱構築	単著	2024年11月	立命館大学人文科学研究so、立命館大学人文科学研究so紀要、140号		PP. 109-123	有

66	伊藤潤一郎	喜劇としてのアナキズム	単著	2025年3月	青土社、現代思想、53巻3号		PP. 180-192	無
67	中澤栄輔	The Consciousness of Virtue: Uncovering the gaps between specialists and the general public in their understanding of virtue in Japan	共著	2024年	Frontiers in Psychology 14	立花幸司		有
68	中澤栄輔	Neuroethics Rounds: Place-Sensitive Approaches for Daily Interfaces of Neuroscience-Neuroethics Ecosystems	共著	2024年11月	The Lancet 404(10466)	稲生宏泰、瀧本禎之		有
69	中澤栄輔	AIと医療倫理	単著	2024年10月	腎と透析 97(4)		PP. 547-551	無
70	宮崎裕助	快原理の彼岸における権力欲動と郵便原則——ジャック・デリダによる「死の欲動」のテレオポイエーシス	単著	2024年10月	岩波書店、『思想』、1207号		PP. 223-242	無
71	宮崎裕助	言説のうち／縁で感覚的なものを救うこと——リオータル『言説、形象』のヘーゲル批判とその展開	単著	2025年2月	東京都立大学、『リミトロフ』、8号		PP. 4-12	無
72	宮崎裕助	【翻訳】サミュエル・ウェーバー「その名以前の脱構築——脱構築とベンヤミンの『暴力批判論』をめぐるいくつかの予備的な覚え書」	単訳	2025年3月	専修大学、『生田哲学』、26号		PP. 69-84	無し
73	西山雄二	他者に委ねられた、自分のものではない秘密——ジャック・デリダの脱構築と秘密	単著	2024年10月	『思想』1207号		PP. 138-154	有
74	池田喬	日常的なものの現象学と言語の限界の経験 —拙書『ハイデガー『存在と時間』を解き明かす』に対する問いへの応答	単著	2024年4月	ハイデガー研究会、『Zuspiel』、7号		PP. 31-45	無
75	柿木伸之	想像の解放による救済へ——ベンヤミンのイメージの美学の射程	単著	2024年4月	形象論研究会、形象、6号		PP. 15-36	無
76	松葉祥一	崇高の美学とその政治的位相——ランシエールのリオータル批判	単著	2025年3月	東京都立大学西山雄二研究室、Limitrophe、no. 8	宮崎裕助・西山雄二責任編集	PP. 56-70	無
77	Junko Shogaki, Atsuko Fukuda, Shoichi Matsuba, Nao Saito, Ikuko Miyawaki	Lived Bodily Experience of Worsening Heart Failure from Acute Exacerbation to Recovery: A Phenomenological Study	共著	2024年	Kobe Journal of Medicine, no. 2		PP. 46-55	有
78	鈴木崇志	フッサール『改造』論文における「人間」概念：日本哲学との比較研究	単著	2024年11月	立命館大学人文科学研究 所紀要、第140号		PP. 29-57	有
79	加國尚志	スタイル、アンガジュマン—ブルーストを読むメルロ＝ポンティ	単著	2024年9月	メルロ＝ポンティ研究、第28号		PP. 47-62	無
80	丸橋 裕	ヴィクトア・フォン・ヴァイツゼカーの場合	単著	2025年3月	日独文化研究所、年報『文明と哲学』、第17号		PP. 81-100	無
81	亀井大輔	デリダとベンヤミンの脱構築——妥協としての正義——	単著	2024年10月	『思想』1207号		PP. 207-222	無
82	亀井大輔	テキストの自己伝承—デリダにおける遺産相続の問題—	単著	2024年11月	『立命館大学人文科学研究 所紀要』140号		PP. 3-26	有
83	亀井大輔	九鬼周造与德里达：偶然性与事件	単著	2024年12月	広西大学『文化与传播』第13巻(第6期)		PP. 10-18	無

84	遠藤英樹	中動態としてのフィールドワークにおける「新しい実在論」——現代世界における〈共生可能性〉をもとめて	単著	2024年9月	都市計画学会, 都市計画, 73巻5号		PP. 76-79	有
85	遠藤英樹	アルゴリズム的なモビリティーズ——人文・社会科学における「移動論的転回」の新地平	単著	2025年1月	立命館大学人文科学研究so, 人文科学研究so紀要, 142号		PP. 5-31	有
86	遠藤英樹	(博士論文概要) ツーリズム・モビリティーズの社会理論——観光社会学の深化と刷新を志向する理論研究	単著	2025年3月	立教大学大学院観光学研究科, 立教観光学研究so紀要, 27号		PP. 29-38	無
87	神田孝治	アッセンブリッジのレンズを通して見るツーリズムとジェンダー——伊勢志摩地域の海女を事例とした考察	単著	2024年10月	観光学術学会, 観光学評論, 12(2)		PP. 155-169	有
88	山本理佳	ヘリテージがつむぐ記憶の場所——旧三井三池炭鉱の炭じん爆発事故を事例にー	単著	2025年1月	歴史地理学会, 歴史地理学, 67巻1号		PP. 64-84	有
89	高田剛司	ガストロノミーツーリズムに見る価値共創とコミュニティ——ローカルフードフェスティバルからのアプローチ	共著	2024年12月	日本観光研究学会, 観光研究, 36巻	尾家建生	PP. 86-94	有
90	轟博志	A basic study on the location and distribution of Wonwoo in the Joseon Dynasty (韓国語)	単著	2024年12月	韓国古地図研究学会, 韓国古地図研究, 16巻2号		PP. 211-235	有
91	轟博志	Road, City, Mountain, and River: Geographical Identity of Korea in Joseon Era(Scopus Indexed)	単著	2024年7月	Academy of Mobility Humanities, Konkuk University, Mobility Humanities, 4巻1号		PP. 151-172	有
92	轟博志	Comparative study on the 'Itinerary' systems of modern Korea and China (韓国語)	単著	2024年6月	韓国古地図研究学会, 韓国古地図研究, 16巻1号		PP. 5-24	有
93	Yotsumoto, Yukio	Determinants of resilience in local food systems: insights from world agriculture heritage sites	共著	2025年2月	British Food Journal, 127(3)	Vafadari, Kazem Khoshkam, Mana Bielik, Peter Ferraris, Alberto	PP. 950-970	有
94	Yotsumoto, Yukio	Assessing the multi-dimensional vulnerability of tourism system in Ethiopia	共著	2025年1月	Ritsumeikan Journal of Asia Pacific Studies, 42	Wondowossen Anteneh Tegegne	PP. 1-39	有
95	Yotsumoto, Yukio	The Interplay Between Tourism Development, Quality of Life, and Local Support for Tourism Growth	共著	2024年10月	African Journal of Hospitality, Tourism and Leisure, 13(3)	Agboola, Moyosola Timothy	PP. 615-623	有
96	松本健太郎	テーマパーク化するモールと観光の拡がり——パタヤにおける「ターミナル21」をおもな題材に	共著	2024年11月	立命館大学人文科学研究so, 人文科学研究so紀要, 142号	須藤廣, 新井克弥, チョンプヌット・ハーンラック	PP. 131-167	有
97	二村洋輔	南方徴用作家としての井伏鱒二の〈まなざし〉に関する一考察	単著	2024年8月	日本比較文化学会, 比較文化研究, 156号		PP. 79-89	有
98	安田慎	観光政策における地域アセット・マネジメント: 地域金融機関による観光活性化ファンドを事例に	単著	2024年12月	地域政策学会 (高崎経済大学), 地域政策研究, 27巻3号		PP. 17-32	無
99	安田慎	観光文学論試論: あるいは、コンテンツ・ツーリズムへの反駁	単著	2025年3月	地域政策学会 (高崎経済大学), 地域政策研究, 27巻4号		PP. 31-45	無
100	Shin Yasuda	Accountability in Islamic Economy: Transforming Religiosity and Religious	単著	2025年3月	京都大学イスラーム地域研究センター, イスラーム世界研究, 18巻		PP. 1-15	有

		Experience in Muslim Societies						
101	Shin Yasuda	Spiritual Turn of Islamic Tourism: The Islamic Way to Experience Economy Beyond the Halal Certification System	単著	2025年3月	京都大学イスラーム地域研究センター, イスラーム世界研究, 18巻		PP. 44-63	有
102	橋本和也	観光における物語の研究	単著	2024年3月	京都文教大学地域共同研究教育センター, 地域共同研究ジャーナル第3集		PP. 3-19	有
103	橋本和也	アート観光の受動論的研究—アートネクサスから情動/生成変化論へ	単著	2024年10月	観光学術学会, 観光学評論, 12巻2号		PP. 113-127	有
104	橋本和也	モビリティの情動論的研究—歩くことと生成変化について	単著	2025年1月	立命館大学人文科学研究so, 人文科学研究so紀要, 142号		PP. 103-129	有
105	種田博之	「ふわふわ」と生きてきた—ある血友病 HIV 感染者のライフストーリー	単著	2025年1月	立命館大学人文科学研究so, 立命館大学人文科学研究so紀要, 142号		PP. 197-222	有
106	韓準祐	持続可能な社会の実現に向けたSDGsへの取り組みと課題—沖縄北部地域のリゾートホテルを対象として	共著	2025年3月	多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要, 17号	柳銀珠	PP. 49-61	無
107	間中光	災害遺構における場所実践と住民の受容—バンダアチェ市の津波遺構 Kapal PLTD Apung(発電船)を事例に	単著	2025年1月	日本災害復興学会, 日本災害復興学会論文集, 25巻		PP. 24-35	有
108	Hikaru Kenchu	The Global Gotong Royong (G2R) Tetrapreneur Concept for Accelerating Tourism Village (Case Study of Karangasem Bantul Tourism Village)	共著	2025年3月	Politeknik Pariwisata Makassar, Pusaka : Journal of Tourism, Hospitality, Travel and Business Event, 7巻1号	Ghifari Yuristiadhi Masyhari, Rika Makhasi, Rika Fatimah P.L	PP. 324-336	有
109	渡部瑞希	「心の復興」を左右する死者のプレゼンス—岩手県大槌町の震災復興に関するテキスト分析から	単著	2024年4月	帝京大学国際日本学研究2号		PP. 79-91	有
110	鎮目真人	韓国・基礎年金における発展の方向性—基礎年金と国民年金との関係性を考慮に入れて	共著	2025年3月	立命館大学産業社会論集, 60巻4号	崔玉金	PP. 1-14	無
111	Kato masatoshi	The theoretical importance of exceptional cases: social protection and its transformations in Japan and Australia in comparative welfare state research	単著	2024年6月	Social Policy Review, 36		PP. 149-171	有
112	加藤雅俊	オーストラリア福祉国家の変容から考える「家族主義/家族主義レジーム」概念の有効性と課題: 福祉国家論の再構築に向けて	単著	2025年3月	立命館大学人文科学研究so紀要, 143号		PP. 99-135	有
113	加藤雅俊	書評: 田中拓道『福祉国家の基礎理論: グローバル化時代の国家のゆくえ』(岩波書店, 2023年)	単著	2025年3月	社会保障研究, 9巻4号		PP. 477-481	無
114	加藤雅俊	書評: Andrew Gamble: Can the Welfare State Survive? (Polity Press, 2016)	単著	2025年3月	立命館大学人文科学研究so紀要, 143号		PP. 151-159	有
115	下村晃平	なぜミルトン・フリードマンは「ネオリベラリズム」を使用しなくなったのか: 1950年代のリベラリズムの政治思想史の再検討に向けての試論	単著	2025年3月	立命館大学人文科学研究so, 143号		PP. 73-95	有

116	下村晃平	書評：林凌『〈消費者〉の誕生—近代日本における消費者主権の系譜と新自由主義』(以文社、2023年)	単著	2025年3月	立命館大学人文科学研究 所, 143号		PP. 147-150	有
117	Ryo Sumida	Perspectives and Social Activities of Retired Self-Defense Force Personnel in Postwar Japan: A Sociological Study on Their Participation in the Japanese War Veterans' Association	単著	2024年10月	Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University, 6		PP. 21-34.	有
118	鈴木裕貴	戦争体験の継承と映像資料の可能性	単著	2025年3月	立命館大学人文科学研究 所紀要, 143号		PP. 5-8	有
119	小森達郎	アーレント「社会問題」批判の再考に向けて	単著	2025年3月	立命館大学人文科学研究 所紀要, 143号		PP. 45-71	有
120	藤本ヨシタカ	書評：ウエンディ・ブラウン(河野真太郎訳)『新自由主義の廃墟—真実の終わり民主主義の未来』(人文書院、2022年)	単著	2025年3月	立命館大学人文科学研究 所紀要, 143号		PP. 137-146.	有
121	佐々木 梓	小林秀雄「蝸の自殺」論—意志と行為をめぐる問題—	単著	2024年5月	『論究日本文学』120号			有
122	松原大介	内田百閒「猫」論——初出雑誌『新青年』の特徴から読み解く——	単著	2025年5月掲載確定済	『日本近代文学』第112集			有
123	松原大介	内田百閒「旅順入城式」論——「記録」から逸脱する「私」の語り——	単著	2025年5月掲載確定済	『阪神近代文学研究』第26号			有
124	佐々木 梓	小林秀雄「戦争と平和」論—時勢とすれ違う〈眼差し〉—	単著	2025年4月掲載予定	『立命館平和研究』第26号			有
125	佐々木 梓	批評の萌芽—小林秀雄「からくり」論	単著	2025年5月掲載予定	『日本近代文学』112集			有
126	Megumi Ochi	The Other Side of the Human Rights Approach to the Reparation for Victims of Armed Conflict: The Coalition of the Sword and Shield Function for Transformative Reparation	単著	2024年	Japanese Yearbook of International Law, 67		PP. 272-295	有
127	久保田隆	いわゆる壁の射殺事件裁判(Mauerschützenprozesse)と刑法による過去の克服	単著	2025年	教養論叢146号		PP. 217-234	無
128	Zidouemba Moussa Theodore	Governance and artificial intelligence: the use of artificial intelligence in democracy and its impacts on the rights to participation	単著	2024年	Discover Artificial Intelligence 5(1)		Online	無
129	園田節子	「ペルーの華僑華人社会—越境する人と政治の歴史的分析—」	単著	2024年12月	上智大学イベロアメリカ研究所『イベロアメリカ研究』46号		PP. 67-99.	有
130	園田節子	「書評論文：Mae Ngai, The Chinese Question: The Gold Rushes and Global Politics, NY: W. W. Norton & Company, 2021.」	単著	2024年12月	日本華僑華人学会『華僑華人研究』21号		PP. 62-70.	有
131	Takamichi Serizawa	"Diasporic Cold Warriors: Nationalist China, Anticommunism, and the Philippine Chinese, 1930s-1970s: Kung, Chien-Wen, (Ithaca, NY: Cornell	Single authored	September 2024	The American Historical Review, 129 (3)		PP. 1226-1227	有

		University Press, 2022),						
132	イシ、アンジェロ	「永住化する在日ブラジル人の意識と実践：“終活／墓活”をめぐる動向と在日外国人地域ボランティアネットワーク円卓会議の回想を手がかりに」	単著	2025年3月	法政大学社会学部学会『社会志林』第71巻4号		PP. 91-104.	有
133	李真熙	「メキシコ国家総合公文書館で沖縄系移民の足跡をたどる」	単著	2024年	『MFE = 多焦点拡張 다초점확장』5号		PP. 158-165.	無
134	李定恩	《書評》李定恩「琴普云著、成田千尋監訳『在韓米軍と韓国地域社会：米軍の基地運営と民軍関係政策 19945-19971』」	単著	2024年	『立命館アジア・日本研究学術年報』5		PP. 164-166.	無
135	北村理依子	性生活に関する個人情報収集と保管—ドゥレロン事件	単著	2024年12月	人権判例報、第9号	小畑郁・江島晶子 責任編集	PP. 75-81	有
136	Rieko Kitamura	Harmful practices outside the scope of cultural rights: An analysis of general comments/general recommendations of the treaty bodies	単著	2024年10月	Ritsumeikan Journal of International Relations and Area Studies, 59	無	PP. 73-92	無
137	中谷義和	流動期の現代世界	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 3-20	
138	NAKATANI Yoshikazu	Integration Effect of Liberalism in Changing Regimes of America	単著	June 2024	Ritsumeikan Law Review, (International Edition) No.42		PP. 21-33	
139	松下洸	グローバルリスクを越えて—システム転換を目指す民衆の創造的な運動—	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 21-55	
140	松下洸	いま、グローバルサウス議論を発展させるために—アプローチとパースペクティブから—	単著	2024年1月	『アジア・アフリカ研究』第64巻第1号			
141	松下洸	グローバルサウス再考II—BRICSの現実は何を意味するのか—	単著	2024年2月	『立命館国際研究』36巻3号			
142	松下洸	グローバルサウス再考III—新たなシステムに向かうグローバルサウスの民衆—	単著	2024年	『立命館国際研究』36巻4号			
143	松下洸	下からのグローバル化と連帯—ポスト資本主義を構想できるか—	単著	2024年6月	『立命館国際研究』37巻1号			
144	五十嵐美華	「人権の尊重」におけるグローバルリスクの軽減—アフリカ統一機構による規範の形成—	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 56-70	
145	五十嵐美華	地域国際機構という存在：『人権保障と地域国際機構—アフリカ連合の役割と可能性—』を上梓して思う	単著	2025年	『季刊・現代の理論』第40号			
146	井澤友美	庶民派ジェロ政権下のインドネシアにおける民主主義の後退とオリガキー政治	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 71-92	
147	米田富太郎	「地球・宇宙圏秩序」に関する「地理学による政策の研究」—「そのためのエッセー理論研究」として—	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 93-108	
148	美馬達哉	グローバルリスク時代の否定論とポストトゥルース—戦略としての無知—	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 109-128	
149	美馬達哉	医療化のレトリック	単著	2025年	岸政彦、山根純佳、前田卓也編『岩波講座 社会学8		PP. 187-215	

					医療・ケア・障害』岩波書店			
150	美馬達哉	COVID-19 パンデミックと無知	単著	2025年	鶴田想人、塚原東吾編著『無知学への招待（知らないこと）を問い直す』明石書店		PP. 299-305	
151	美馬達哉	大腸は墓場か？ プトメイン説	単著	2024年	現代思想 53 巻 1 号		PP. 148-157	無
152	美馬達哉	『疫病と世界史』文系・理系の枠を超えて楽しめる歴史書	単著	2024年	現代思想 52 巻 8 号		PP. 8-12	無
153	松井信之	AI の存在論的なリスク—統治・一般意志・コスモロジー—	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 29-147	
154	Matsui, Nobuyuki	Creative Imagination, Justice, and Nothingness: Reflections on the “Force” in the Works of Karatani Kōjin and Nakamura Yūjiro	単著	2024年	International Journal of Social Imaginaries, Vol.4(1)		PP. 7-34	
155	ガジェヴァ・ナデジュダ	グローバルリスクとしての偽情報—EU 及び日本における課題とアプローチ—	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 148-168	
156	北和樹	AI のリスクとグローバル・ガバナンスの展望	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 169-187	
157	山口達也	宇宙資源開発をめぐるリスクと法	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 188-209	
158	田丸幹	宇宙開発リスクとしてのスペース・デブリ問題	単著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房		PP. 210-226	
159	田丸幹	スペース・デブリ問題—宇宙環境保護の側面からの考察—	単著	2024年	『立命館大学人文科学研究紀要』No.142		PP. 223-246	有
160	龍澤邦彦	結びに代えて	共著	2025年3月	川村仁子編著『グローバルリスク・ダイナミクス』晃洋書房	川村仁子	PP. 227-232	
161	漆原 良	「コオーディネーショントレーニングは何を改善するのか」	単著	2025年3月	『現代スポーツ研究』第8号		PP. 30-43	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	宮下祥子	内灘闘争再考—知識人の議論と関与を手がかりに	2024年7月	加能地域史研究会研究例会、(於) 石川県立歴史博物館	
2	福井優	鶴見良行の平和論：ベ平連運動との関わりを中心に	2024年11月	日本思想史学会 2024 年度大会、(於) 筑波大学筑波キャンパス	
3	木多悠介	明治陸軍への国家法人説流入過程の検証—有賀長雄の論説を中心に—	2025年1月	日本史研究会近現代史部会 1 月部会、(於) 機関誌会館 (京都市)	
4	田中龍	華北交通のメディア戦略—創出されたイメージを手掛かりに—	2024年10月	近現代史研究会、(於) 名古屋大学 (名古屋市)	
5	田中龍	北支那開発株式会社と華北交通—交通に関する観点からみる「外地」華北への日本の姿勢	2024年12月	立命館史学会、(於) 立命館大学衣笠キャンパス (京都市)	
6	丸山彩	明治期の京都における演奏会—京都音楽会に着目して	2024年5月	音楽教育史学会第 37 回大会、(於) 東京学芸大学 (東京都)	
7	丸山彩	明治後半期の京都音楽会—演奏会プログラムの傾向に関する検討—	2024年10月	日本音楽教育学会第 55 回大会、(於) 玉川大学 (東京都)	
8	丸山彩	明治 30 年代から 40 年代の京都における演奏会の諸相	2024年11月	東洋音楽学会第 75 回大会、(於) 東京学芸大学 (東京都)	

9	猪原透	大正期の経済学と人口論 —大西猪之介とその周辺	2024年11月1	日本思想史学会 2024 年度大会、於) 東北大学 (仙台市)	
10	猪原透	<書評>杉山亮『井上哲次郎と「国体」の光芒 一官学の覇権と〈反官〉アカデミズム』	2024年7月	「日本文明」研究フォーラム 2024 年第 2 回書評コロキウム、於) 星陵会館 (東京都)	
11	猪原透	<書評>織田健志『長谷川如是閑の政治思想 —社会・生活・日本と「保守」の心性—』	2025年3月	思想史の会、於) 法政大学市ヶ谷キャンパス (東京都)	
12	寺澤優	東北恐慌後の玉ノ井私娼街の変容	2025年2月	近代日本思想史研究会例会、於) 立命館大学衣笠キャンパス (京都市)	
13	松野周治	“Japan’s direction in the decoupling world economy: RCEP vs. IPEF, values of economic cooperation in NEA”	2024年5月	韓国東北アジア経済学会 2024 年大会、於) 東国大学 (韓国ソウル市)	
14	松野周治	全球経済的分化と日本の走向	2024年8月	国際学術研討会『東北全面振興と双循環』、於) 東北財経大学 (中国大連市)	
15	松野周治	六次産業論と『二重の双循環』	2024年11月	第 4 回第六次産業国際論壇、於) 松江市	
16	山口一樹	一九二〇年代における陸軍と政一軍協調体制の形成：統帥権独立と政治の狭間	2024年6月	大阪歴史学会大会近代史部会、於) 大阪大学豊中キャンパス	
17	山口一樹	公文書館が進める県史編さん事業	2024年7月	大阪歴史科学協議会 7 月例会、於) 滋賀県立公文書館	
18	奈良勝司	幕末の徳川開国論と昌平黌朱子学	2024年6月	近世史研究会、於) 名古屋大学 (名古屋市)	
19	奈良勝司	三条実万の政治思想—橋派との比較から—	2024年7月	2024年度中国四国歴史学地理学協会大会日本史部会、於) 広島大学 (東広島市)	
20	奈良勝司	『歴史総合』における「近世」	2024年7月	東北亜歴史財団・日韓歴史教育フォーラム、於) 韓国ソウル市	
21	奈良勝司	井伊直弼をめぐる水戸藩士の間答と太平洋戦争での玉砕	2024年7月	東広島歴史楽会 7 月度月例講座、於) 東広島市役所北会議室	
22	奈良勝司	晩年の三条実美の振る舞いについて —三条実万との比較の観点から—	2024年9月、12月	日本史学若手研究者ワークショップ、於) 九州大学・広島大学	
23	奈良勝司	明治維新と政治言語	2024年	九州史学研究会近現代史部会 (オンライン)	
24	佐藤太久磨	帝国秩序のなかの政治と思想	2024年6月	早稲田大学 SI プログラム、zoom 開催	
25	河原梓水	戦後風俗雑誌にみる戦後知識人の思想とセクシュアリティ	2024年6月	九州歴史科学研究会 6 月例会、於) 西南学院大学 (福岡市)	
26	河原梓水	<座談会>サディスト、マゾヒスト、思考の軌跡	2024年6月	『SM の思想史』刊行記念イベント、於) 梅田 Lateral (大阪市)	観菜月らみい、吉川孝
27	河原梓水	<対談>GOD SAVE THE KOGEI	2024年8月	SEX PRAYERS・Ka-O-Bi オープニングイベント	エセム万
28	河原梓水	<座談会>サディスト、マゾヒスト、思考の軌跡	2024年8月	SM bar Mirage、於) SM bar Mirage (東京)	奈加あきら、鏡堂みやび
29	河原梓水	欲望を語る技法：戦後日本において肯定的な「変態性欲」表現が獲得されるまで	2024年9月	Antitled 友の会第 3 回研究大会、於) 立命館大学 (京都市)	
30	河原梓水	暴力・ファンタジー・実践	2025年2月	『SM の思想史』読書会、於) ブックカフェ二十世紀 (東京)	中原るつ
31	真杉侑里	昭和初期の私娼街—愛知県城東園の沿革と実態について—	2024年5月	韓国日本近代学会、於) 東儀大学校 (韓国釜山)	
32	伊故海貴則	移民集団はどのように合意形成を行ったのか—明治期北海道の総代会・村中会議に関する試論—	2024年11月	政治経済学経済史学会 2024 年度秋季学術大会、於) 北海道大学 (札幌市)	
33	島田龍	NHK カルチャー「文芸口	2024年6月～	NHK カルチャー、於) 青山 (東京)	

		座]	9月		
34	島田龍	<対談>幻の詩人 左川ちかを探して 装いと詩	2024年9月	NHKカルチャー、於) 青山(東京)	川野芽生
35	島田龍	<シンポジウム>呼応する、女性のモダニズム —左川ちか、ヴァージニア・ウルフ、ゾラ・ニール・ハーストナー	2024年10月	日本英文学会北海道支部第69回大会、於) 北海道教育大学旭川校(旭川市)	
36	西田彰一	保守派知識人たちのキリスト教観について—雑誌『東亜の光』を中心に	2024年11月	日本思想史学会大会、於) 茨城大学(水戸市)	
37	西田彰一	〈やまとばたらき〉と神拝作法—大政翼賛会錬成局の禊祓行事・神拝作法の整備について	2025年2月	昭和10年代文部省研究会、於) 京都市北文化会館(京都市)	
38	青柳雅文	はざままで行き来する思考—若きホルクハイマーの哲学思想	2024年11月	社会思想史学会 第49回大会、セッションA「批判理論」の成立過程：初期ホルクハイマーにそくして、東北大学	楠秀樹、上野成利、細見和之
39	堀内智吉	デュルケム道徳論の倫理的意義—善と義務の調和を目指して	2024年11月	関西倫理学会 南山大学	
40	Romarc Jannel	Conceptions marxiennes des philosophes japonais	2024年6月	Séminaire « L'éventail des marxismes », Université Paris 8	
41	Romarc Jannel	日本文化における「縁起」概念—日常から哲学へ—、『海外から見た日本文化を学ぶ講座』	2024年6月	『海外から見た日本文化を学ぶ講座』、大阪府高齢者大学校	
42	Romarc Jannel	タイトルなし	2024年6日	『悠子 & Steven A. Tainer, Intercultural Phenomenology: Playing with Reality 合評会』立命館大学	
43	Romarc Jannel	Vie, expérience et transformation du monde chez Miki Kiyoshi	2024年7月	『生とは何の謂いか』(Qu'appelle-t-on vie?)	
44	Romarc Jannel	京都学派の哲学者・山内得立	2024年7月	『近世・近代の思想研究会』、奈良県立大学	
45	Romarc Jannel	田辺元と山内得立の「縁起」概念	2024年8月	『田辺元生誕140周年記念シンポジウム』、京都大学	
46	Romarc Jannel	L'architecture prélogique et logique du cosmos. Approche interculturelle	2024年10月	Séminaire « En deçà de la vie ? Vers une philosophie interculturelle », Collège international de philosophie	
47	Romarc Jannel	Les mots de l'éducation au Japon. Une approche philosophique	2024年11月	Société francophone de philosophie de l'éducation/Collège international de philosophie	
48	Romarc Jannel	環境危機と社会の理解 ~ 今西錦司の思想から学ぶ	2024年11月	『地球システム・倫理学会第20回学術大会』、総合地球環境学研究所	
49	Romarc Jannel	Environmental Crisis and Society: Some Reflections Based on Imanishi Kinji's Theories	2024年12月	Verein für Komparative Philosophie und Interdisziplinäre Bildung „KoPhil“ Vortragsreihe: „Buddhism in Dialogue with the Contemporary Sciences, University of Vienna	
50	Romarc Jannel	タイトルなし	2025年1月	『Season Lao「虚室・生白」をめぐる芸術と哲学の対話』、東京大学東アジア藝文書院(EAA)	
51	Romarc Jannel	En deçà de la vie : l'éventail des néants	2025年3月	Séminaire « En deçà de la vie ? Vers une philosophie interculturelle », Collège international de philosophie	
52	Naoki Arimura	The Concept of Imagination and Its Role in Bosanquet's and Whitehead's Philosophical Methods	2024年10月	Whitehead and Idealism: International Online Conference, Bucharest, Romania (online)	
53	有村直輝	ホワイトヘッド「自由と秩序」草稿における想像力の	2024年12月	日本ホワイトヘッド・プロセス学会第46回大会、京都	

		概念について—ロマン主義的系譜との距離			
54	谷 徹	「大地と身体」プロローグ	2024年9月	立命館大学間文化現象学研究センター、人文科学研究所、張燦輝先生写真展「大地の相」開催記念ワークショップ	張燦輝、張政遠
55	柳川耕平	空腹がもたらすリズム	2024年6月	日本時間学会第16回大会、愛知淑徳大学	
56	柳川耕平	生を律する時間——フッサール現象学の視座から	2024年8月	「社会の時間」研究会 2024年度夏公開研究会、オンライン開催	
57	柳川耕平	衝動の時間的性格について	2024年11月	日本現象学会第46回研究大会、北海道大学	
58	伊藤潤一郎	色のクオリアと証言	2024年6月	日本色彩学会 第55回大会	
59	伊藤潤一郎	生殖の脱超越論化——スピヴァクとともに	2024年11月	社会思想史学会 第49回大会	
60	中澤栄輔	ELSI への取り組みと患者・市民参画そして気づき	2025年3月	ELSI Hiroshima ワークショップ 2025. 於広島大学	
61	宮崎裕助	ライナー・シュールマンを導入する——その思想の全体像	2024年4月	明治大学 MIPs 研究集会「ライナー・シュールマンの哲学——ハイデガーとアナーキーの原理を中心に」	
62	Yusuke Miyazaki	Blindness and Insight of Reading: Deconstruction Between Jacques Derrida and Paul de Man	2024年6月	8th Derrida Today Conference	
63	宮崎裕助	弁解機械と読むことのエチカ——告白をめぐるルソーとデリダ/ド・マンの問い	2024年7月	第46回 新潟哲学思想セミナー	
64	宮崎裕助	離接的偶然と責任の問い——九鬼、檜垣、デリダ	2024年12月	脱構築研究会、専修大学哲学学会	
65	宮崎裕助	言語のうち/縁で、いかにして感覚的なものを救済するか——リオータル『言説、形象』のヘーゲル批判とその展開	2024年12月	脱構築研究会、専修大学哲学学会	
66	宮崎裕助	いまここにある平和から始めること——カントとデリダの歓待論	2025年2月	脱構築研究会	
67	西山雄二	The Boundary of Secret, Reading Jacques Derrida's Répondre du secret	2024年6月	講演会、Sofia University "St. Kliment Ohridski"	
68	西山雄二	Deconstruction as the Thinking of Secret	2024年11月	After-words/After-worlds. The Legacy of Jacques Derrida, University of Silesia in Katowice	
69	西山雄二	The Creative and Sinister Power of Lying: The Philosophy and Politics of Falsehood	2025年3月	Creation, the World: Ends, Beginnings, New Bulgarian University	
70	Takashi Ikeda	Epistemic Injustice and Phenomenology	2024年5月	On Human Dignity: From Phenomenological Perspective, Kokugakuin University	
71	池田喬	存在の意味への問いがなぜ今こそ重要なのか——ハイデガー『存在と時間』刊行100周年を迎えるための準備作業——	2024年7月	第46回フッセルアーベント、東北大学	
72	吉川孝	違法とされるブルーフィルム——21世紀のシークレット・ミュージアム——	2025年1月	『映像アーカイブ・スタディーズ』Book Launching Symposium	
73	吉川孝	フッサール哲学における自伝的なもの——『改造』論文に滲み出ているかもしれない「個人的なエートス」について——	2025年3月	フッサール研究会	

74	佐藤愛	『精神分析の系譜』再読—失われた始源から喪失による生へ	2024年6月	日本ミシェル・アンリ哲学会 第16回大会	
75	酒井麻依子	身体を着替える：介助の現象学試論	2024年11月	日本現象学会、北海道大学	油田優衣
76	酒井麻依子	経験を言葉にもたらすこと—言語の権力	2024年7月	社会芸術学会シンポジウム「言語と社会」、専修大学	
77	松葉祥一	われわれは何を見せられているのか、いつまで見せられるのか	2024年	脱構築研究会(10周年ミーティング)、早稲田大学戸山キャンパス	
78	鈴木崇志	思い込みと出会い：廣松渉とフッサールの他者論の比較	2025年2月	第4回東アジア間文化現象学会議、立命館大学	
79	石原悠子	Intercultural Phenomenology: Playing with Reality 著者紹介	2024年6月	『石原悠子 & Steven A. Tainer, Intercultural Phenomenology: Playing with Reality 合評会』、立命館大学	
80	若杉直人	ジョルジュ・バタイユの方法論—演劇化と弁証法の交差	2024年9月	日仏哲学会(2024年秋季大会大会)	
81	亀井大輔	九鬼周造と哲学的ナショナリズム—〈翻訳〉の視点から	2024年5月	中日の近代哲学・思想の交差とその実践 第七回共同研究会、京都大学人文科学研究所	
82	亀井大輔	デリダのハイデガー読解について—『ハイデガー講義』以後の変遷を辿る	2024年5月	第96回関西ハイデガー研究会、大阪大学	
83	亀井大輔	Deconstructions of Derrida/Benjamin: Justice as Compromise	2024年9月	2024 International conference on Conflicts and Reconciliation、国立中山大学(台湾)	
84	亀井大輔	九鬼周造『偶然性の問題』第3章・第9節「偶然性の時間性格」の問題	2024年12月	第2回「日本哲学の脱構築」ワークショップ・九鬼周造『偶然性の問題』を読む、専修大学	
85	亀井大輔	デリダとガダマーの「ハイデルベルク会談」(1988)を読む	2024年12月	ガダマー協会第2回大会シンポジウム「「テキスト」の可能性—脱構築と解釈学」、上智大学	
86	Hideki Endo	New Social Theory of Digitalized Mobilities Affecting Mobilities by Mobilizing Affect	2024年10月	2024Global Mobility Humanities Conference (GMHC)、韓国ソウル建国大学+Zoom	
87	神田孝治	海女と真珠と博覧会—アッセンブリのレンズを通して考える	2024年9月	万博学研究会第15回研究会合	
88	川村仁子	AIの国際的なガバナンスに向けた2つの潮流	2024年10月	国際地域研究所重点プロジェクト「中国強国化と国際秩序」の国際シンポジウム「EU、日本、中国におけるインターネットとAIガバナンス」	
89	川村仁子	宇宙分野の国際的なガバナンスの研究	2024年11月	立命館大学宇宙地球探査研究センター(ESEC)第2回全体ミーティング	
90	羽谷沙織	タイ=カンボジア国境地域における越境通学児童の教育戦略と学校選択—トラート県/コックコン州の国境地域の事例	2024年6月	第60回日本比較教育学会名古屋大学	森下稔(東京海洋大学)
91	羽谷沙織	グローバリズムと教育—カンボジア古典舞踊を通して変化する世界認識を考える	2024年6月	第60回日本比較教育学会名古屋大学	
92	轟博志	朝鮮半島の古代都市における行政区域	2024年11月	Ritsumeikan Asia Pacific University, Asia Pacific Conference 2024	
92	轟博志	韓国の古道と通信使道	2024年10月	福岡朝鮮通信使研究会例会	
93	轟博志	麗末鮮初における駅舎の地理的分布変化	2024年10月	The 12th World Congress of Korean Studies	

94	轟博志	交通結節点としての完州地域の重要性	2024年10月	日韓国際交流シンポジウム「百済とシルクロードの出会い」	
95	轟博志	Formalization and side effects of heritage utilization for tourism: Case of Japan Heritage	2024年8月	35th International Geographical Congress – Dublin 2024	
96	轟博志	韓国都市景観に見る歴史の記憶：古代から現代へ	2024年6月	東アジア都市人文学の構築と連帯：21世紀地域学の未来を論じる	
97	Yotsumoto, Yukio	Utilization of local resources for development of rural tourism: Comparison of two Japanese communities	2024年12月	Ritsumeikan Asia Pacific University, Asia Pacific Conference 2024	
98	四本幸夫	持続可能性と地域づくりに関する観光諸形態の比較	2024年7月	観光学術学会第13回大会（阪南大学）	
99	松本健太郎	ハブとしての大学——地域と学生の結節点として	2025年1月	鹿児島大学法文学部における講演、鹿児島大学	なし
100	松本健太郎	ゲームと旅、およびそれらの接点から考える人と環境	2025年1月	「テクノロジーと文化」研究会、鹿児島大学	太田純貴、福田裕大、城一裕、秋庭史典
101	須藤廣	YouTube as a medium for travel experience: Reality beyond 'The Tourist Gaze'	2024年12月	Ritsumeikan Asia Pacific University, Asia Pacific Conference 2024	無
102	安田峰俊	現代中国国内外の反体制華人ネットユーザーの動向	2024年5月	東京財団政策研究所 柯隆 PG 第四回研究会「コロナ禍前と後の中国社会、経済と政治の変化に関する考察」	
103	Yosuke Nimura	Invisible People: Malay Hegemony in the Malaysian Political Arena and the Representation of Orang Aslis in Contemporary Malaysia	2024年8月	IACRS Opening Conference Thailand, Bangkok	
104	二村洋輔	井伏鱒二の「花の町」における現代人表象について	2024年9月	日本比較文化学会中部支部第14回支部大会、椋山女学園大学	
105	Yosuke Nimura	Multi-ethnic Malaysia and the Absence of Indigenous People: A Critical Reading of Yasmin Ahmad's Talentime	2025年2月	International Conference on Film Studies: "Identity and Otherness in Film"	
106	Yosuke Nimura	Museums as an Apparatus of Ideology: University of Malaya's Museum of Asian Art as an Example	2025年3月	The 2nd IACRS International Conference, Bangkok	
107	Shin Yasuda	Financial Flow and Governance in Islamic Tourism: The Study of Travel Saving Accounts for Religious Tourism	2024年6月	15th International Conference of Religious Tourism and Pilgrimage, Finnish Archipelago	
108	安田慎	センススケープをめぐるローカリティとモビリティーアメリカ合衆国におけるアラブ音楽とナショナル・アラブ・オーケストラ	2024年7月	観光学術学会第13回大会（阪南大学）	
109	Shin Yasuda	Narration of Islamic Mobilisation in the Digital Space: Religious Authenticity and Market Force of Islamic Experiences by Islamic Tour Operators	2024年10月		
110	Shin Yasuda	Spiritual Turn of Islamic Tourism: Islamic Way of Experience Economy beyond Halal Certification	2024年11月	2nd International Conference on Islamic and Halal Economic Studies, Double Tree by Hilton Johor Bahru, Malaysia	

		System			
111	Shin Yasuda	Remaking the Islamic Middle East in the Globalised Era: Development of Global Islamic Heritage in Islamic Tourism Projects	2024年12月	15th Conference of the Asian Federation of Middle East Studies Associations. Doshisha University, Kyoto	
112	Shin Yasuda	Halal Tourism 2.0 in Japan: The New Wave of Trust-building and Accountability in the Halal Economy in a Non-Muslim Country	2025年3月	International Workshop "Strengthening Accountability in Islamic Economic Systems: With Special Emphasis on Trust-Building and Halal Standards" Online	
113	種田博之	HPV ワクチンの勧奨接種再開をめぐる「Boundary Work (境界作業)」	2024年11月	日本社会学会第97回大会(京都産業大学)	
114	韓準祐	過疎化が進む地域における「観光・まちづくり」の変遷——伊豆半島・河津町を事例に	2024年11月	Ritsumeikan Asia Pacific University, Asia Pacific Conference 2024	
115	間中光	レジリエントな観光まちづくりとは何か——地方都市におけるコロナ禍対応を事例に	2024年11月	Ritsumeikan Asia Pacific University, Asia Pacific Conference 2024	
116	薬師寺浩之	タイにおける「足るを知る経済」理念を軸としたホームステイツーリズム振興と「タイらしさ」イメージ——チェンマイ近郊のバーン・ライゴーンキン・コミュニティの事例から	2024年7月	観光学術学会第13回大会(阪南大学)	
117	Hiroyuki Yakushiji	The homestay programme and empowerment of host families in the rural areas of Japan	2024年8月	35th International Geographical Congress 2024, Dublin City University	
118	薬師寺浩之	ツーリストの旅行経験に関する考察—美的なまなざしが及ぼす地理的想像力と倫理観の形成を中心に—	2024年11月	2024年人文地理学会大会(近畿大学東大阪キャンパス)	
119	薬師寺浩之	地理学・地域観光学研究における ネットノグラフィ—調査の方法と実践	2024年11月	2024年度立命館地理学会大会(立命館大学衣笠キャンパス)	
120	渡部瑞希	観光地における「活動のハイブリッド化」	2024年7月	観光学術学会第13回研究大会(阪南大学)	
121	渡部瑞希	旅における通過儀礼の再考察	2024年7月	観光学術学会第13回研究大会(阪南大学)	市野澤順平、鈴木涼太郎、東賢太郎、石野隆美
122	渡部瑞希	デジタル時代におけるツーリストの存在論	2025年3月	立命館大学人文科学研究重点プログラム研究会「(観光の人文的研究)の新たな展開をめざして」	
123	小野真由美	日本人高齢者の海外移住と〈迷惑〉意識: マレーシアへの移住と帰還をめぐる	2024年5月	シンポジウム 「高齢期における〈迷惑〉意識とは何か—人類学・看護学・思想史からのアプローチ」、科研「日本社会の「老い」をめぐる分野横断的研究—「迷惑」と「ジリツ」の観点から」(岡山大学)	
133	小野真由美	日本人高齢者の海外移住と〈迷惑〉意識—マレーシアからの帰還をめぐる 2024年6月2日	2024年6月	自主企画フォーラム6「日本における老い・看取り・死をめぐる〈迷惑〉意識の過去と現在」、日本老年社会学会2024年度大会(帝塚山大学)	
134	小野真由美	老いの現場からみる〈迷惑〉意識:3つのフィールドをめ	2024年10月	教育シンポジウム「老い・看取り・死をめぐる「迷惑をかけたくない」という思	

		ぐって		いとは何かー日本社会の「老い」をめぐる分野横断的研究ー」、日本エンドオブライフケア学会第7回学術集会（金沢歌舞伎座）	
135	小野真由美	移動・移住の人類学における近年の研究動向	2024年11月	シンポジウム「観光人類学の新潮流」（宮城学院女子大学）	
136	小野真由美	日本人高齢者の海外移住における〈迷惑〉意識：マレーシア移住と帰還をめぐる	2024年10月	シンポジウム「現代日本における高齢者のもつ 迷惑をかけたくない意識とジリツ」、立命館大学人文科学研究所重点研究プログラム「グローバル化と地域の多様性（diversity）」（立命館大学）	
137	小野真由美	日本におけるロングステイツーリズムの展開と現状	2025年3月	島根大学山陰研究センター観光研究会第2回研究会（島根大学）	
138	三枝暁子	「歴史」の共有と継承ー京都西京神人を例としてー	2024年12月	歴史科学協議会大会 関西大学	
139	鷺尾渉	ゴシック小説における西欧中世イメージ：The Vampire と貴族的ヴァンパイアの登場について	2025年3月	中世関連文化研究会、立命館大学衣笠キャンパス・人文科学研究所研究会室	
140	佐々木梓	小林秀雄「芥川龍之介の美神と宿命」論ー測鉛を手掛かりにー	2024年8月	立命館大学日本文学会研究例会立命館大学	
141	佐々木梓	小林秀雄「おふえりや遺文」ーランボウのエピグラフをめぐるー	2024年12月	全国大学国語国文学会会冬季大会 東北大学	
142	Megumi Ochi	Creating War Crime Archives	2024年9月	VIII Kharkiv International Legal Forum	
143	Megumi Ochi	In Absentia War Crimes Trials in Ukraine	2024年8月	Seminar at University of Freiburg	
144	Megumi Ochi	The Temporal Scope of Harm in the International Criminal Court's Reparation Orders: Trans- and Inter-Generational Justice Perspectives	2024年7月	The 2024 annual conference of the International Association of Reconciliation Studies	
145	Hiroko Kawaguchi	Reparative Design for Creating the Future from the Present of Post-war Society: Towards Transformative Justice Linking the Global and the Local	2024年7月	The 2024 annual conference of the International Association of Reconciliation Studies	
146	Zidouemba Moussa Theodore	Commemorating the Past for a Better Future: Addressing Crimes and Human Rights Violations Under the Compaoré Regime	2025年2月	International Seminar: War Crimes Archiving	
147	越智萌	判例研究「オンクウェン事件賠償命令（国際刑事裁判所）」	2024年6月	国際刑事判例研究会	
148	久保田隆	判例研究「ICC 第10 第一審裁判部 2024 年 11 月20 日量刑判決」	2025年2月	国際刑事判例研究会	
149	久保田隆	国際刑事裁判所（ICC）から見たウクライナ問題	2024年	政策情報学会第20回研究大会・パネルディスカッション2	
150	横濱和弥	The Prosecutor v. Al Hassan, ICC (TC X), Trial Judgment, ICC-01/12-01/18-2594-Red, 26 June 2024 北海道	2024年12月	国際刑事判例研究会	

150	越智萌	国際刑事裁判所 (ICC) の逮捕状発付のタイミングとフォーマットについて -関係性理論に基づく手続的正義の観点から-	2025年2月	国際法研究会	
151	Megumi Ochi	International Criminal Procedure and Global Constitutionalism	2025年1月	Japan-Taiwan International Law Young Scholars Forum	
152	園田節子	「出国者を包摂する近現代の送出国家と社会を考える—1949年以前の中国の華僑政策と“越境政治”の国際比較共同研究から」	2024年6月23日	第34回日本移民学会年次大会、同志社大学	
153	園田節子	「サンパウロの台湾移民に関する歴史研究試論 (1949年以降)」	2024年11月8日	上智大学オープンリサーチウィークオンラインワークショップ「変貌するサンパウロの東洋街」、上智大学イベロアメリカ研究所 (オンライン報告)	
154	Setsuko Sonoda	“The Chinese Diaspora and Modern China: Transnationalism and Class of the Chinese of the British West Indies, the 1880s–1970s”	20 February, 2025.	China Studies Seminar Series, the Oxford China Centre, the University of Oxford, UK.	
156	岡本直美	「米国統治下沖縄における土地闘争の越境的側面—「農民」と米国人宣教師との関わりより—」	2024年6月23日	第34回日本移民学会年次大会、同志社大学	
157	Naomi Okamoto	"Land Struggle and Learning Movement for a Demilitarised Society: Ie-Shima Anti-War Peace Movement in Okinawa in 1960s",	July 11th 2024	Association for Asian Studies in Asia, Yogyakarta	
158	岡本直美	「食からみえる土地を守る闘い—伊江島土地闘争を手がかりにして—」	2025年3月22日	日本オーラルヒストリー学会研究実践交流会、沖縄県立博物館・美術館	
159	Takamichi Serizawa	"Peasant Uprisings and Communist Network in the Philippines during 1930s"	November 2024	Dialogo: Philippine Studies Goes Global, Manila	
160	Ishi, Angelo	“Media, memory and migration: How Brazilians in Japan are writing their history(ies).”	2024年9月6日	Institute for Research into Superdiversity (IRiS) International Conference, Panel 27. University of Birmingham, (オンライン報告)	
161	Ishi, Angelo	“Brasileiros no Japão: Passado e Presente.”	2024年8月31日	Instituto Diáspora Brasil (米国ボストン市を拠点とする非営利団体) 主催ウェビナーシリーズ “Diálogos Transnacionais” で講演。演題：(オンライン報告)	
162	イシ、アンジェロ	「在日ブラジル人の終活と移住史の総括：周年記念をめぐる官民の実践に着目して」	2024年7月6日	武蔵社会学会2024年度年次大会、(於：武蔵大学)	
163	イシ、アンジェロ	「在外ブラジル人の組織化とエンパワーメントをめぐる官民の実践：“アカデミック・ディアスポラ”、代表組織の変容、オンラインコミュニティの事例」	2024年7月28日	第6回「越境政治の国際比較」研究会 (キャンパスプラザ京都)	
164	岸川毅	「ドミニカ共和国の華僑華人と越境政治—先行研究と現地調査に基づく初歩的考察—」	2024年7月28日	第6回「越境政治の国際比較」研究会 (キャンパスプラザ京都)	

167	岸川毅	「中台米の外交競争とドミニカ共和国の選択」	2024年11月16日	日本国際政治学会2024年研究大会(札幌コンベンションセンター)	
168	李真熙	『世界のウチナーンチュ』をめぐり—考察:1980年前後の沖縄言論空間における移民特集の視点から—	2024年6月23日	第34回日本移民学会年次大会、同志社大学	
169	李定恩	「フィリピン人女性のジェンダー化した『移動』と労働: フィリピン人英語講師に着目して」	2025年1月25日	東ユーラシア研究プロジェクト、2024年度全体集会、北海道	
170	李定恩	『フィリピン人英語講師』はどのようにつくられるか—ジェンダー、人種/エスニシティ・英語・ケアの交差生に着目して—	2024年12月7日	日本科学者分科会、オンライン	
170	Lee, Jung-eun(李定恩)	「The Transformation of Intimate Labor: A Case of Filipino English Language Instructors in the Philippines」	20 November, 2024	AP conference, Oita, Japan	
172	川村仁子	先端科学技術のガバナンス—研究・開発とリスク管理の両立のために—	2024年10月22日	内閣府「第11回消費者法制度のパラダイムシフトに関する専門調査会」	
173	五十嵐美華	アフリカ連合の役割—人権の尊重の視点から—	2024年	2024年度衣笠ライスボールセミナー	
174	五十嵐美華	人権規範の受容をめぐり非西洋圏の地域機構のダイナミズム: アフリカ連合への国際法社会学からのアプローチ	2024年	第71回AJI研究最前線セミナー	
175	五十嵐美華	『人権保障と地域国際機構—アフリカ連合の役割と可能性—』	2024年	第21回AJI主催Book Launch	
176	Mika IGARASHI	The Dynamics of Non-Western Regional Organization in Harmonizing Human Rights Norms: An Approach from the Social Theory of International Law towards the African Union	2024年	2024年度立命館大学国際関係学部授業「Research Training」	
177	Tatsuya MIMA	The Impact of the COVID-19 Pandemic on the Lives of Ventilator Users: Ethical Considerations	13-15th Mar. 2025	Pandemic ELSI International Conference, Kyoto JAPAN	
178	美馬達哉	傷つく身体から拡張する身体へ—ポストヒューマン時代における—	2025年2月10日	「ポストヒューマンにおける「人間」の基礎研究」研究会、大阪大学吹田キャンパス	
179	Tatsuya MIMA	COVID-19 Experiences of Ventilator Users	2024年11月23日	臺灣社會學會年會@中山医学大学	
180	美馬達哉	医療社会学からみたピアと医療専門家の関わり方」ワークショップ「患者・市民参画(PPI)とは何か—その現状と課題—	2024年11月2日	日本医学哲学倫理学会大会@滋賀医大	
181	Gadjeva, N.	The Significance of Public-Private Partnerships in Countering Disinformation: A focus on Japanese Public Diplomacy in Europe	March 4, 2025	International Workshop for Early-career Researchers: Science, Technology and International Society III, Ritsumeikan University, Kyoto	
182	Matsui, Nobuyuki	Rhythms of Exchange, Body, and Postal Space: Utopia as Resonance with	September 2024	The 8th European Network of Japanese Philosophy Conference, Tallinn, Estonia	

		the 'Nothingness'			
183	Matsui, Nobuyuki	Anthropology of Dehumanization: Miki Kiyoshi's Ontology of Technology	November 2024	Miki Kiyoshi Workshop, online and Pennsylvania State University, The United States	
184	Matsui, Nobuyuki	How Can Human and Artificial Intelligences Merge? Visions of Western and Non-Western Philosophical Perspectives	November and December 2025	Asia-Pacific Conference 2024, Beppu, Oita	
185	Matsui, Nobuyuki	Rhythm of Adaptability and Thoughts of the « World »: Common Sense, Place and Technology	February 2025	Worskhop NOVI 2025 "Risk, Adaptation and New Forms of Life", Doshisha University	
186	市井吉興	「【学会個人発表】スケートボードのグローバルヒストリーを描く試み」	2024年8月	日本スポーツ・体育・健康学会 第74回大会 福岡大学	
187	市井吉興	「【学会個人発表】スポーツ犯罪学とは何か」	2025年3月	日本スポーツ社会学会 第34回大会 岡山大学	
188	豊島誠也	「【キーノートレクチャー】台湾に見られるエクストリームスポーツの文化変容～極限運動としての土着化過程に着目して」	2024年8月	日本スポーツ・体育・健康学会 第74回大会 福岡大学	
189	豊島誠也	「【基調講演】エクストリームスポーツの世界：台湾の事例を中心に」	2025年3月	第26回 日本スポーツ人類学会 静岡産業大学	
190	豊島誠也	「【シンポジウム:指定討論者】遠州の伝統スポーツ：そのエクストリームスポーツ化の企て」	2025年3月	第26回 日本スポーツ人類学会 静岡産業大学	寒川恒夫、真田久
191	豊島誠也	「【学会発表】民俗スポーツの熱狂を記述するための試論—志多伯の獅子加那志と「武の舞」を事例として」	2025年3月	第26回 日本スポーツ人類学会 静岡産業大学	田邊元、小木曾航平
192	塩見俊一	「【学会個人発表】日本におけるスケートボード揺籃期の展開について」	2025年3月	日本スポーツ社会学会 第34回大会 岡山大学	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第1回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス	2024年7月	20	
2	第2回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス	2024年7月	20	
3	第3回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス	2025年2月	20	
4	第4回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス	2025年2月	20	
5	石原悠子 & Steven A. Tainer, Intercultural Phenomenology: Playing with Reality 合評会	立命館大学	2024年6月	30名	
6	国際シンポジウム「「われわれ」と「不気味な他者」——ハイデガー／デリダをめぐる——」	立命館大学	2024年7月	50名	脱構築研究会
7	「メルロ＝ポンティ哲学研究の最前線」ベネデッタ・ザッカレロ氏講演会	立命館大学	2024年7月	30名	
8	国際ワークショップ「フッサール現象学から見たカント倫理学」	オンライン	2024年7月	30名	
9	張燦輝写真展「大地の相」開催記念ワークショップ	立命館大学	2024年9月	30名	

10	ワークショップ「ジャック・デリダの講義録『思考すること、それはノンと言うことである』を読む」	立命館大学	2024年11月	70名	
11	第4回東アジア間文化現象学会議	立命館大学	2025年2月	40名	中山大学哲学系
12	SEASON LAO「虚室・生白」西田幾多郎記念哲学館 インスタレーション・パフォーマンス	西田幾多郎記念哲学館	2024年12月	100名	京都大学、東京大学、Collège international de philosophie
13	Rivers and Mountains in Asian Environmental Philosophies	Symposium of the Network of Asian Environmental Philosophy	2024年11月	50名	Network of Asian Environmental Philosophy
14	Séminaire «La philosophie et la question nationale» (Héctor G. Castaño 共催)	Collège international de philosophie   Online	2024年11月3~5	10名	京都大学 國立中山大學（台湾）
15	Séminaire « En deçà de la vie ? Vers une philosophie interculturelle »	Collège international de philosophie   Online	2024年11月~2025年3月	50名	京都大学 中国人民大学 Université de technologie de Compiègne
16	サミュエル・ウェーバー「応答と呼びかけ——他者との交渉」ワークショップ	東京大学駒場キャンパス	2024年7月	30名	専修大学、脱構築研究会
17	第2回「日本哲学の脱構築」ワークショップ「九鬼周造『偶然性の問題』を読む——離接的偶然を中心に」	専修大学生田キャンパス	2024年12月	50名	専修大学哲学会、脱構築研究会
18	ジャン＝フランソワ・リオータル生誕100年シンポジウム——『言説、形象（ディスクール、フィギュール）』を読む	専修大学生田キャンパス	2024年12月	40名	専修大学、脱構築研究会
19	【研究集会】ライナー・シュールマンの哲学—ハイデガーとアナーキーの原理を中心に	明治大学・和泉キャンパス	2024年4月	40名	明治大学文学部哲学専攻 Meiji Institute of Philosophies (MIPs)主催
20	【ワークショップ】子どものための哲学(P4C)における認識的不正義	明治大学・和泉キャンパス	2024年7月	30名	明治大学文学部哲学専攻 Meiji Institute of Philosophies (MIPs)主催
21	第6回九鬼周造記念シンポジウム	甲南大学	2024年8月	24名	
22	立命館大学人文科学研究所シンポジウム モビリティーズ研究を前進させる Moving mobilities studies to forward	衣笠キャンパス	2024年11月	50名	
23	立命館大学人文科学研究所シンポジウム アルゴリズム的な近代を問う Algorithmic Modernity	衣笠キャンパス	2025年3月	50名	
24	立命館大学人文科学研究所研究ワークショップ Workshop of Tourism Mobilities ①	衣笠キャンパス	2024年5月	20名	
25	立命館大学人文科学研究所研究ワークショップ Workshop of Tourism Mobilities ②	衣笠キャンパス	2024年7月	20名	
26	立命館大学人文科学研究所重点プログラム研究会「たかが観光、されど観光」の社会学——社会の両義性・複雑性をもとめて	Zoom	2024年9月	100名	
27	立命館大学人文科学研究所重点プログラム研究会「〈観光の人文学的研究〉の新たな展開をめざして」	衣笠キャンパス	2025年3月	50名	
28	Governing Outer Space: Challenges and Opportunities	衣笠キャンパス	2024年5月	20名	立命館大学国際地域研究所、立命館大学大学院国際関係研究科、University of St. Andrews
29	「科学技術と人間・社会」研究会	衣笠キャンパス	2024年6月	10名	
30	On Global Governance of Science and Technology, Including Public Private Partnership	衣笠キャンパス	2025年3月	15名	LUISS University、
31	International Workshop for Early-career Researchers: Science, Technology and International Society III	衣笠キャンパス	2025年3月	6名	LUISS University、

32	「科学技術と人間・社会」研究会	衣笠キャンパス	2025年1月	10名	
33	EU交換プログラム「エラスムス」大学提携講演会	エポック立命21	2024年11月	60名	カメリーノ大学 (イタリア) Tipicità
34	Alessandro Circiello 講演会	エポック立命21	2024年11月	40名	イタリア大阪領事館
35	イタリア5州ワイン文化講演会	エポック立命21	2024年10月	40名	イタリア農協 Coldiretti, Italian Culinary Consortium
36	小川実紗『観光と「性」：迎合と抵抗の沖縄戦後史』(創元社、2023年) 合評会	朱雀キャンパス	2025年3月	25名	
37	クイン・スロボディアン『グローバリスト』(白水社、2024年) 合評会	朱雀キャンパス	2025年3月	40名	
38	角田燎『陸軍将校たちの戦後史』(新曜社、2024年) 合評会	朱雀キャンパス	2025年3月	25名	
39	The Workshop of “East Asian Welfare State in Transition”	衣笠キャンパス	2025年3月	15名	
40	真鍋公希『円谷英二の卓越化—特撮の社会学』(ナカニシヤ出版、2023年) 合評会	朱雀キャンパス	2025年2月	25名	
41	湖国の「7・24」を考える—滋賀県内の模擬原爆被害とその証言を聞く会	旧大津公会堂	2024年7月	40名	
42	シンポジウム「現代日本における高齢者のもつ 迷惑をかけたくない意識とジリツ」	衣笠キャンパス	2024年10月	30名	科研費・基盤研究 A「日本社会の「老い」をめぐる分野横断的研究—「迷惑」と「ジリツ」の観点から」(課題番号 20A00007) 科研費・基盤研究 C「意思決定能力を欠く本人の固有の表明と捉え得る要素とその重要性の解明」(23K00033) との共催
43	中世関連文化研究会	衣笠キャンパス	2024年9月	6名	
44	中世関連文化研究会	衣笠キャンパス	2025年3月	6名	
45	International Seminar: War Crimes Archiving	関西セミナーハウス	2025年2月	30名	立命館大学国際平和ミュージアム
46	立命館大学人文研助成プロジェクト「越境政治の国際比較」第6回研究会	キャンパスプラザ京都	2024年7月28日	10名	(園田主催)
47	立命館大学人文研助成プロジェクト「越境政治の国際比較」第7回研究会(ゲスト講師回)	Zoom オンライン	2025年3月9日	10名	(園田主催)
48	在日ブラジル人の支援団体 Restart Community 主催「移民の日記念シンポジウム」	群馬県大泉町リスタート・コミュニティ	2024年6月18日		(イシ、企画およびパネリスト)
49	日本移民学会第34回年次大会 ラウンドテーブル H「ブラジル系ディアスポラ研究の最前線:英国の移民研究者から学ぶ」	日本移民学会第34回年次大会、会場:同志社大学	2024年6月23日	16名	(イシ、ラウンドテーブル H の企画、趣旨説明、およびモデレーター)
50	在日ブラジル人研究者協会 (Associação dos Pesquisadores Brasileiros no Japão) 主催「Fórum de Pesquisadores e Comunidade Brasileira no Japão」(「研究者および在日ブラジル人コミュニティのフォーラム」)	駐日ブラジル大使館	2024年10月18日		(イシ、第4パネル(テーマ: Ciência feita pelos brasileiros no Japão) の顧問およびコメンテーター)
51	(公財)海外日系人協会主催 第64回海外日系人大会	JICA 市ヶ谷	2024年10月16日		(イシ、パネルディスカッション2「共生社会に貢献するニッケイ新世代」でモデレーター)
52	日本移民学会第34回年次大会 ラウンドテーブル F「アジアにおける親密性の再編と『自己』の再構築」	日本移民学会第34回年次大会、会場:同志社大学	2024年6月23日	31名	(李定恩、ラウンドテーブル F の企画、趣旨説明、およびモデレーター)
53	日本移民学会第34回年次大会 ラウンドテーブル G「<移民>とはなにか? 帝国の狭間に生きる在日コリアンと日系アメリカ人の映像作品、芸術活動から考える」	日本移民学会第34回年次大会、会場:同志社大学	2024年6月23日	10名	(李真熙、ラウンドテーブル G の企画、趣旨説明、およびモデレーター)
54	Governing Outer Space: Challenges and Opportunities	衣笠キャンパス	2024年5月29日	20名	立命館大学国際地域研究所、立命館大学大学院国際関係研究科、University of St. Andrews
55	「科学技術と人間・社会」研究会	衣笠キャンパス	2024年6月6日	10名	
56	「科学技術と人間・社会」研究会	衣笠キャンパス	2025年1月17日	10名	

57	イアン・ボーデン著『全スケートボード史』を読む	衣笠キャンパス	2024年12月	20名	
----	-------------------------	---------	----------	-----	--

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	有村直輝	第13回国際ホワイトヘッド会議 (IWC) 参加報告	『プロセス思想』、24号、pp. 53-56	2014年4月～9月
2	谷徹	哲学と精神医学が出会うとき	公益財団法人日独文化研究所、哲学講座 第1講、第6講	2024年6月～8月
3	谷徹	唯一性と応答性——自然と文化の現象学	立命館大学衣笠総合研究機構、立命館大学土曜講座	2025年2月
4	柳川耕平	【男女共同参画・若手研究者支援WG主催ワークショップ】「出産育児とキャリア形成：親になることと研究・教育活動」「子育てと研究の一事例」	北海道大学	2024年11月
5	柳川耕平	2024年度夏公開研究会 現代人の生と時間 第一報告要旨 「生を律する時間——フッサール現象学の視座から——」	『総合文化』(1) pp. 164-165	2025年3月（公刊）
6	伊藤潤一郎	連載 睡眠を哲学する	集英社新書プラス 計5回掲載	2024年10月～2025年3月
7	宮崎裕助	母語の狂気から他者の単一言語使用へ——ジャック・デリダの（非）フランス（現代）思想入門	人文会ニュース、第147号	2024年8月
8	西山雄二	ドキュメンタリー映画と講演 哲学者ジャック・デリダ——思考の勇氣	日仏会館・恵比寿	2025年2月
9	吉川孝	自伝——カヴェルのように哲学する	スタンリー・カヴェルからはじめる書棚散策（ブックレット／フィルカル編集部）	2024年8月
10	松葉祥一 訳	リオータル×ロゴザンスキー「思想警察」	Limitrophe（東京都立大学西山雄二研究室紀要）、No. 8（宮崎裕助・西山雄二責任編集）	2025年3月
11	松葉祥一作成	リオータル書誌	Limitrophe（東京都立大学西山雄二研究室紀要）、No. 8（宮崎裕助・西山雄二責任編集）	2025年3月
12	鈴木崇志	フッサール現象学入門	早稲田大学エクステンションセンター公開講座、オンライン（全3回）	2025年2～3月
13	丸橋裕	哲学と精神医学が出会う時——ヴィクトリア・フォン・ヴァイツゼッカーの場合	日独文化研究所	2024年7月
14	亀井大輔	2024年度初春哲学講座「ジャック・デリダの思想——ハイデガーとの関係を中心に」	日独文化研究所、全6回の講師を担当	2025年2月～2025年4月
15	遠藤英樹	「地域に対するケア（配慮）」というギフト——オーバーツーリズムを超えるために	立命館大学・土曜講座、衣笠キャンパス	2024年6月
16	川村仁子	AIの国際的なルールづくりに向けて	立命館大学・土曜講座、衣笠キャンパス	2024年4月
17	川村仁子	先端科学技術のガバナンス—研究・開発とリスク管理の両立のために—	内閣府「第11回消費者法制度のパラダイムシフトに関する専門調査会」	2024年10月
18	川村仁子	第21回AJIブックローンチ司会	オンライン	2024年11月
19	石田雅芳	La vita di Pietro Miola	プリミエーロ市役所（イタリア）	2025年2月
20	石田雅芳	Italian Week 100 審査委員		2024年4月-2025年3月
21	石田雅芳	Scienze Gastronomiche applicate a Ritsumeikan University	Tipicità 食博覧会（イタリア、フェルモ市）	2025年3月
22	石田雅芳	Gastronomia giapponese con 2 piatti tradizionali	Tipicità 食博覧会（イタリア、フェルモ市）	2025年3月
23	石田雅芳	食マネジメント学部のピッツァ講座について報道	イタリア報道番組 Tg5	2025年1月
24	石田雅芳	食文化の担い手としての飲食店	沖縄県名護博物館	2024年10月

25	石田雅芳	Tavole Accademiche 京都吉兆と学食提供	食科学大学 (イタリア)	2024年9月
26	石田雅芳	食マネジメント学部設立趣旨について	ボローニャ大学学長ホール (イタリア)	2024年9月
27	高田剛司	セミナー講師「カフェがつくり出す地域のつながり」	立命館×草津市びわこ講座	2024年9月
28	高田剛司	セミナー講師「食文化と観光」	JICA 課題別研修	2024年10月
29	高田剛司	講演:食を主体的に学ぶ-食科学をめぐるPBLにおけるICTや映像の活用「アバターロボットによる施設見学の効果と可能性」	立命館食総合研究センター公開シンポジウム	2025年3月
30	安田峰俊	朝日新聞論壇時評委員	朝日新聞・文化欄 (月1回)	2023年4月-2025年3月
31	安田峰俊	日本国在中国大使館公式微博コラムニスト	日本国在中国大使館公式微博コラム	2024年4月-2025年3月
32	安田峰俊	民粹と良心 日本の世論における中国	局外人書店 (中国語発表)	2024年3月
33	安田峰俊	太平天国新論 (秦暉氏、菊地秀明氏とシンポジウム)	局外人書店 (中国語発表)	2024年11月
34	二村洋輔	ヴァナキュラーな存在とその記録≠記憶——マレーシアを例に	立命館大学、ヴァナキュラー文化研究会「ヴァナキュラー文化と共同体の記憶を巡って」	2025年2月
35	韓準祐	藤沢市市民講座:ダークツーリズム——「非日常」と「日常」、その「間」を繋ぐ済州4・3事件	藤沢市市民講座、多摩大学湘南キャンパス	2024年9月
36	谷崎友紀	江戸時代の旅と名所と宇治の里	東宇治図書館	2024年11月
37	谷崎友紀	江戸時代の旅と名所とこんぴらさん	灸まん美術館	2024年11月
38	薬師寺浩之	観光を学ぶことで広がる知識と視野	天理高等学校進路説明会講演	2024年9月
39	ウェルズ恵子	記事「黒人霊歌——自由を求めた人々の歌」	ハーモニー 208号 April 2024 (全日本合唱連盟会誌)	2024年4月10日
40	ウェルズ恵子	シンポジウム講師「沈黙と暴力:物語ること、語らないこと、語れないこと」	立命館大学国際言語文化研究所連続講演会	2024年10月25日
41	ウェルズ恵子	講演「二つの「リトル・ガール・ブルー」:ジャニス・ジョプリンとニーナ・シモンの声」	テキスト研究会第24回大会	2024年8月24日
42	越智萌	法の支配のための具体策について-国際刑事司法の観点から	参議院外交・安全保障に関する調査会	2025年2月12日
43	岡本直美	講演:「沖縄の反戦平和からみる越境的な繋がり」	日本基督教団京北教会「平和を考える集い」、京都、2024年8月4日	
44	イシ、アンジェロ	一般誌論文:「日本とブラジルを繋ぎ続ける日系人:高まる日伯の人的絆と望まれる一層の関係強化策」	『公明』227号、公明党機関紙委員会、2024年11月発行、pp.32-37	
45	イシ、アンジェロ	寄稿:「日系人はつらいよ!大多数が永住者である在日ブラジル人の立場から」	移住者と連帯する全国ネットワーク(移住連)情報誌『Mネット』235号、2024年8月発行、10頁。	
46	イシ、アンジェロ	新聞オピニオン:「生まれた国 残る思い(特集「耕論」:帰化するということ)」	『朝日新聞』2024年11月21日朝刊	
47	イシ、アンジェロ	基調講演:「“多文化共生”:誰もが暮らしやすい社会にするために知っておきたいこと」	日本青年会議所第54回埼玉ブロック朝霞大会(2024年6月15日、於:朝霞市総合体育館)	
48	イシ、アンジェロ	基調講演:「共生社会の実現には何が必要か:在日外国人が直面する言葉・心・法の壁」	茨城県国際交流・協力ネットワーク会議(2024年7月18日、於:茨城県立県民文化センター)	
49	イシ、アンジェロ	講演:「在日ブラジル人が直面した言葉・心・法の壁:共生社会への扉を開くカギ」	令和6年度河内地区人権教育指導者一般研修(2024年12月3日、於:栃木県総合教育センター)	
50	岸川毅	ウェブ論考:岸川毅「ブラジルのルーラ外交が目指す多元的国際秩序:なぜ中国と共鳴するのか」	nippon.com, 2025年1月14日. <a href="https://www.nippon.com/ja/in-depth/d01094/">https://www.nippon.com/ja/in-depth/d01094/</a>	

51	Kishikawa, Takeshi	ウェブ論考: "What Makes the Brazil-China Partnership Tick? Lula's Multilateral Diplomacy in Context"	nippon.com, February 21, 2025. https://www.nippon.com/en/in-depth/d01094/	
52	李真熙	新聞寄稿: 『『交流ますます太く』／我部政男氏／台湾大で蔵書贈呈式』	『琉球新報』2024年7月24日朝刊	
53	李定恩	ゲスト講義: 「越境するビジネスとしてのフィリピンの英語学校」	宮城学院女子大学「多文化社会とビジネス」2025年1月15日、オンライン	
54	李定恩	エッセイ: 「フィリピンの都市(クラーク): 英語学校のまちとなった「クラーク」と若者たちの移動」	《アジア・日本研究 Web マガジン》アジア・マップ」2024年4月。	
55	北村理依子	Discussant and Commentator of Session 3: Towards E-justice? A Case for Electronic Submission of Third-Party Interventions before the European Court of Human Rights	Soshikan conference room, Ritsumeikan Kinugasa campus	2025年3月1日
56	松井信之	AJI 学術エッセイシリーズ	『ビッグデータと日本哲学の融合へ: AI 革命時代に中村雄二郎の哲学を継承する』 計6回掲載	2024年～2025年

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	高田剛司	観光学術学会	観光学術学会賞 (観光企画・作品賞)	ガストロノミーリズムー一食文化と観光地域づくり	2024年7月

7. 科学研究費助成事業 (科研費)						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	西田 彰一	戦前日本の内務省と水野錬太郎の政治思想研究	若手研究	2021年4月	2026年3月	代表
2	山口 一樹	天皇制と「死」をめぐるポリティクスとしての統帥権独立論に関する研究	若手研究	2021年4月	2025年3月	代表
3	吉田 武弘	「代表」されるべき「公議」と貴衆両院制の出發	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
4	猪原透	近代日本思想史における人口認識の研究	基盤研究(C)	2024年4月	2028年3月	代表
5	十河 和貴	近代日本の政党政治と対外政策の構造的矛盾: 国際協調と帝国政治の相克をめぐる	若手研究	2024年4月	227年3月	代表
6	青柳雅文	20世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	分担
7	有村直輝	19～20世紀イギリスにおける想像力論の系譜: ホホワイトヘッド哲学を参照点として	若手研究	2024年4月	2027年3月	代表
8	柳川耕平	食欲現象の現象学的・時間論的検討	若手研究	2023年4月	2025年3月	代表
9	伊藤潤一郎	色覚多様性から挑む色のクオリアの性質	挑戦的研究(萌芽)	2023年6月	2025年3月	分担
10	伊藤潤一郎	20世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	分担
11	中澤栄輔	健康危機における資源配分および保健医療・福祉サービス水準の調整に関する研究	基盤研究(B)	2012年4月	2025年3月	分担
12	宮崎裕助	共通感覚の公共的機能の研究を基盤とした「テレパシー共同体論」の構築	基盤研究(C)	2024年4月	2028年3月	代表
13	宮崎裕助	ジャック・デリダの脱構築思想にもとづく「歓待」の学際的・国際的研究	基盤研究(B)	2024年4月	2029年3月	分担
14	西山雄二	ジャック・デリダの脱構築思想にもとづく「歓待」の学際的・国際的研究	基盤研究(B)	2024年4月	2029年3月	代表
15	池田喬	ケア実践の現場における「対話」を倫理的・法的に基礎づけるための研究	基盤研究(B)	2022年4月	2026年3月	分担
16	柿木伸之	20世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	分担

17	吉川孝	ポルノグラフィのアーカイブに関する倫理学的研究	基盤研究(C)	2023年4月	2027年3月	代表
18	吉川孝	デジタル映像アーカイブの未来研究	基盤研究(B)	2024年4月	2025年3月	分担
19	佐藤愛	母子の情動に関する思想史的研究	特別研究員奨励費	2024年4月	2027年3月	代表
20	佐藤愛	スラヴォイ・ジジェク思想基盤の解明：ヘーゲル、ラカン解釈を中心に	基盤研究(B)	2024年4月	2028年3月	分担
21	酒井麻依子	マジョリティ性の現象学	若手研究	2024年4月	2029年3月	代表
22	鈴木崇志	「二人称の他者」の現象学：その形成史と現代的意義の研究	若手研究	2022年4月	2025年3月	代表
23	亀井大輔	20世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	代表
24	亀井大輔	ジャック・デリダの講義録「責任の問い」の思想史的研究と国際的研究基盤の構築	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	分担
25	加國尚志	フランス実存主義哲学の日本での受容についての基礎的研究	基盤研究(C)	2023年4月	2025年3月	代表
26	永守伸年	「信頼の多層モデル」に基づく道徳の規範性の解明	若手研究	2022年4月	2026年3月	代表
27	永守伸年	ヘイトスピーチからホープスピーチへ：未来志向の言論空間を探る	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	分担
28	石原悠子	東アジア哲学の国際的研究拠点の形成	基盤研究(B)	2020年4月	2025年3月	分担
29	林 芳紀	スポーツ倫理学における相互主義の批判的考察：スポーツ規範理論の構築に向けて	基盤研究(C)	2024年4月	2027年3月	代表
30	石原悠子	京都学派における「遊びの哲学」の可能性——西洋近現代の遊びの哲学との比較研究	若手研究	2021年4月	2026年3月	代表
31	神島裕子	ロールズの国際正義論における国家主義と倫理学的的方法	基盤研究(C)	2023年4月	2027年3月	代表
32	日暮 雅夫	批判理論からの新自由主義と権威主義との批判	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
33	松田 智裕	19世紀の哲学教育論と戦後フランスの教育改革運動に関する思想史的研究	若手研究	2023年4月	2026年3月	代表
34	遠藤英樹	ツーリズム・モビリティーズの現在・課題・可能性——地域の持続可能性を志向する研究	基盤研究(B)	2024年4月	2027年3月	代表
35	種田博之	HPV ワクチンの勧奨接種再開をめぐる「boundary work (境界作業)」	基盤研究(C)	2023年4月	2026年3月	代表
36	種田博之	薬害 HIV 感染被害者のライフストーリーから社会・心理的支援を構築する	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	分担
37	種田博之	薬害をめぐるコンフリクトと制度化	基盤研究(B)	2023年4月	2026年3月	分担
38	薬師寺浩之	開発途上国におけるホームステイを中核とした観光開発に関する国際比較研究	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	分担
39	薬師寺浩之	観光者の旅行行動や経験に関するネットノグラフィー調査を用いた研究	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
40	安田慎	イスラミック・ツーリズムにおける観光経験の宗教資源フローをめぐる実証研究	基盤研究(B)	2020年4月	2025年3月	代表
41	渡部瑞希	観光における不確実性とリスク——不安と分断に抗する観光実践への理論的展望	基盤研究(B)	2022年4月	2025年3月	分担
42	谷崎友紀	視覚資料の空間表現に関する歴史地理学的研究——英語圏地理学の理論と東洋美術の節点	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	分担
43	加藤雅俊	「家族主義レジーム」の変容に関する国際比較研究	基盤研究(B)	2021年4月	2024年3月	代表
44	小林ハッサル柔子	太平洋戦争と国際移動のグローバル史——アジア地域からオーストラリアへの疎開者の歴史	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	代表
45	四本幸夫	パンデミック時代の人口減少地域の観光による持続可能なコミュニティ作りへの比較研究	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	代表
46	四本幸夫	Rural Development and Community Resiliency through Agricultural	基盤研究(B)	2021年4月	2025年3月	分担

		Heritage Tourism				
47	二村洋輔	戦時下帝国日本と英領マラヤにおける戦争文学の<原住民>表象をめぐる比較文学的研究	基盤研究(C)	2023年4月	2026年3月	代表
48	橋本和也	地域の観光人材育成と新たな「観光ネクサス」の生成に寄与する「地域芸術祭」の研究	基盤研究(C)	2024年4月	2027年3月	代表
49	羽谷沙織	カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承におけるクメール系ディアスポラの貢献	基盤研究(C)	2021年4月	2025年3月	代表
50	日暮 雅夫	批判理論からの新自由主義と権威主義との批判	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
51	山本理佳	現代のヘリテージ化における観光の影響に関する研究—近代産業遺産を事例に—	基盤研究(C)	2024年4月	2027年3月	代表
52	井上充幸	名古屋市蓬左文庫蔵『銅人シユ穴鍼灸図経』に見る17世紀東アジア文化交流史の具体相	基盤研究(B)	2023年4月	2025年3月	代表
53	越智萌	中核犯罪の「被害」に関する研究—国際刑事司法により救済されるべきは誰か—	若手研究	2023年4月	2029年3月	代表
54	園田節子	越境政治の国際比較: 出国者を包摂する近現代の送出国と社会の研究	基盤研究(B)	2022年4月	2027年3月	代表
55	園田節子	接近する東アジアとラテンアメリカ—新たな太平洋世界の形成—	基盤研究(A)	2022年4月	2027年3月	分担
56	岸川毅	越境政治の国際比較: 出国者を包摂する近現代の送出国と社会の研究	基盤研究(A)	2022年4月	2027年3月	代表
57	岸川毅	接近する東アジアとラテンアメリカ—新たな太平洋世界の形成—	基盤研究(B)	2022年4月	2027年3月	分担
58	北村理依子	法多元主義による人権法理論の再構築	若手研究	2024年4月	2027年3月	代表
59	Rieko Kitamura	Post-COVID-19 Multicultural Community Building in Japan: Enhancing Risk Communication and Resilience among Foreign Residents	基盤研究(C)	2024年4月	2028年3月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	中澤栄輔	ヒト脳改変の未来に向けた実験倫理的ELSI研究方法論の開発	JST・RISTEX・科学技術のELSIへの包括的実践プログラム（RInCA）プロジェクト	2022年4月	2026年3月	分担
2	中澤栄輔	脳神経倫理に関する支援と研究開発	日本医療研究開発機構 脳神経科学統合プログラム（個別重点研究課題）	2024年12月	2030年3月	代表
3	永守伸年	対話システムに対するトラスト形成阻害要因の特定および抑制技術の研究開発	国立研究開発法人科学技術振興機構	2024年4月	2028年3月	分担
4	川口博子	戦後社会の現在から未来を創造する賠償デザイン	トヨタ財団 2023 研究助成プログラム	2023年11月	2025年10月	代表
5	園田節子	英領植民地社会と中華民国僑務から読み解く20世紀華僑華人のグローバル・ヒストリー	公益財団法人 村田学術振興・教育財団・第40回（2024年度）研究助成・人文社会科学	2024年12月	2025年11月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1	立命太郎	特許（国内）	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本